

ノ逃亡ノ類ト同視ス可キニ非ス故ニ普通ハ三十六箇月ヲ經ルニ非サレハ除族セサルヲ成規ト爲ス華族部内ニモ亦必ス特別ノ内規ヲ立タル有ル可シ因テ本官ハ「戸主」云云ノ六字ヲ削リ失踪等ノ場合モ此第一項ニ包含セシメントス且原案ニモ「家督相續スヘキ男子ナク」云云ト言ヘリト雖モ男子ナラザレハ相續スルヲ得サルハ既ニ成規ノ在ル有リ加之此文字ニ據レハ或ハ男子アルモ相續スルニ耐ユル人ナキトキト解スルノ虞レ有レハ此第一項ハ單ニ家督相續者ナキトキト修正スルヲ善シトス幸ニ各官ノ賛成ヲ乞フ

○四十一番 渡邊清 十一番ニ間フ只今ノ修正案ニ據レハ第一項ハ太タ廣クシテ奪爵除族ノ場合ヲモ包含セン然レハ則チ第二項ハ全ク無要ニ歸スレハ發議者ハ之ヲ削ラントスル乎果シテ然レハ本官ハ賛

成ヲ表セン

○十一番 伊丹重賢 本官ハ原案ノ文字ヲ換ヘサルモ妨ケ無クハ務メテ之ヲ換ヘサルヲ欲ス然ルニ奈何セン前陳ノ理由ナルヲ以テ「スヘキ男子」ノ五字ハ必ス之ヲ換ヘサルヲ得ス質疑者ハ家督相續者ナキトキト言ヘハ第二項ニ列記セル事項ヲモ包含スト云フモ本項ニ所謂ル爵ヲ奪ハレ族ヲ除カルルハ犯罪若クハ甚キ不品行ノ場合ノミニ限リ第一項ノ所謂戸主死亡又ハ失踪等ノ已ムヲ得サル場合ト同シカラサレハ第二項ハ本案ニ從フテ之ヲ存スルナリ

○議長 十一番ノ修正說ハ賛成者ヲ得サルヲ以テ問題ト爲ラス

○四十一番 渡邊清 本官ノ動議ト十一番ノ動議トハ共ニ成立セサリシモ本案ノ如ク「戸主死亡ノ後」云云ト言ヘハ此場合ノミニ限レルニ

似タリ又前項ニ男子ナキトキト言ヒ後項ニ相續者ナキトキト言ヘ
ハ後項ノ場合ニハ女戸主ヲ許スヤノ疑ヒヲ生セン原案ハ死亡云云
ノ文字ヲ載セサルヲ以テ失踪等ノ場合ヲモ包含シ寧ロ妥當ナルニ
近シ因テ本官ハ全ク原案ニ復スル修正説ヲ提出ス

○二十一番 林友幸 賛成

○二十五番 棋村正直 本官モ二項ニ分チテ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケ後項

ニ之ヲ掲ケサルヲ疑ヒシニ幸ニ修正説出タリ實ハ第一項ヲ家督相
續者ナキトキト修正シ第二項ハ全ク削除スルヲ優レリトスルモ原
案ニ復スル亦可ナルヲ以テ四十一番ノ動議ヲ賛成ス

○四十番 中村正直 賛成

○十一番 伊丹重賢 賛成

○三十一番 鍋島幹 賛成

○議長 四十一番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五番 三浦安 本官ハ原案ノ旨趣ヲ變更セス惟タ其文字ヲ補正シタル

ノミ論者ハ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケテ後項ニ之ヲ掲ケサルト失踪
者等ノ事項ヲ脱スルトヲ以テ本案ヲ批難スルモ第一項ノ男子ノ文
字ハ原案ニモ之ヲ載セリ蓋シ男子ナラサレハ相續スルヲ得サルノ
意ヲ明示スル爲メナラン又失踪ハ偶マ或ハ之レ有ルモ成規ノ期限
ヲ過レハ死亡ト看テ可ナリ第二項ノ爵ヲ奪ハレ族ヲ除カレタル場
合ハ華族懲戒令ニ因リ官命ヲ以テ特ニ相續者ヲ定ムル等ノ時ナレ
ハ奪爵者ナリ除族者ナリ自ラ相續者ヲ選ムヲ得ス故ニ特ニ男子ノ
文字ヲ掲ケサルモ女戸主ヲ包含セサルハ明白ナリ要スルニ前項ニ

男子ノ文字ヲ掲ケ而シテ後項ニ之ヲ掲ケサルハ一ハ自然ニ出テ一ハ自ラ招クトノ差異ニ出ツ是レ敢テ障礙ナキヲ信ス又第一項ニ戸主死亡ノ後ナル一句ヲ添加セシハ原案ノ茫漠トシテ據ル所ヲ知ラサルカ爲メニシテ素ヨリ旨趣ヲ變更セルニ非サルナリ

○四十一番 渡邊清 例ニ沿ヒ更ニ一回ノ發言ヲ爲サン修正委員ハ單ニ家督相續云云ト言ヘハ茫漠トシテ據ル所ヲ知ラス故ニ戸主死亡云云ノ一句ヲ添加セリト云ヒ又第一項ハ通常ノ場合第二項ハ非常ノ場合ニ係レハ前ニ男子ノ文字ヲ掲ケ後ニ之ヲ掲ケサルモ不可ナル無シト云フ思フニ第一項ノ男子ノ文字ハ原案ニ載セタル者ニ係リ即チ男子ノ有無ヲ主眼ト爲セル故ニ彼ニ在テハ不可ナル無キモ修正案ハ戸主死亡云云ノ文字ヲ添加シ且其一項ヲ兩分セル爲メニ戸

主死亡ノ文字ハ第二項ノ爵ヲ奪ハレ云云ト對照シテ主眼ニ似タルノ嫌ヒヲ生セリ畢竟修正ハ原案ノ不備不明等ヲ補完スル爲メ已ムヲ得サルニ出ル者ナルニ本條ノ修正ハ啻ニ已ムヲ得テ已マサルノミナラス本官輩ハ却テ原案ノ優レルヲ覺フ是此恢復說ヲ發スル所以ナリ

退席

三番

長松

幹

○二十二番 柴原和 問題發議者ハ本條ノ修正ハ修正委員ノ好事ニ出タル如ク論スルモ決シテ然ラス是等ノ理由ハ本官嘗テ辨明シタレトモ恐クハ其旨趣ノ貫徹セサリシナル可シ因テ只今五番ノ説明セルニ拘ラス尙ホ補陳セン原案ノ如ク單ニ「家督相續」云云ト言テ人皆戸主死亡ノ後ト觀ル可キモ華族令ニハ戸主死亡ノ後ト明記シタル

ヲ以テ此ニ之ヲ明記セサレハ或ハ其死亡セサルモ家督相續スヘキ
男子ナキ場合ヲ包含スルヤノ疑ヒ無キヲ保タス乃チ内閣委員ニ質
セシニ獨リ死亡ノ場合ノミニ限ルト云ヘリ然レハ則チ明ニ之ヲ揭
示シ人ヲシテ疑ヒ無ラシムルニ如カス是レ本官等ノ此文字ヲ添加
セシ所以ナリ又前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケテ後項ニ之ヲ掲ケサルヲ
批難スレトモ後項ノ場合ハ五番モ説明セル如ク犯罪若クハ甚シキ
不品行ノ爲メニ爵ヲ奪ハレ族ヲ除カレタルモ猶ホ特旨ヲ以テ家督
相續ヲ命スル時ニ係レハ女子ヲ選ム無キハ明瞭ナリ然ルニ此ニ男
子ノ文字ヲ掲クレハ却テ蛇足ニ屬ス故ニ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケ
而シテ後項ニ之ヲ掲ケサルモ敢テ疑ヒヲ容ル可キニ非スト信ス

○議長 四十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十一人

○議長 少數ナルヲ以テ四十一番ノ修正說ハ消滅ス他ニ發議ナクハ
第十四條乃至第十八條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十九條 世襲財産ヲ創設増殖加更換又ハ補充セントスル者ハ其願
書ニ財産目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財
産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ
第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳地方ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社
ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ
掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ但世襲財産附屬物ハ華族局ニ

於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財產ニ關シ故
 障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財產臺帳ニ記入セシメ
 認可證ヲ下付シ第一類ノ財產ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ地券臺帳ニ
 記入セシメ地方府縣廳ハ戶長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類
 ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ根帳
 ニ記入セシムヘシ
 華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財
 產ト爲リタル旨ヲ記入スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ第十九條乃至第二十一條ハ可決ト認メテ次
 條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二十二條 世襲財產其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ地方府縣
 廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

世襲財產附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十三條 世襲財產創設者及ヒ所有者ハ第二十條及ヒ第二十二
 條ニ關スル公告費用ヲ華族局ニ納ムヘシハ其財產所有者ヨリ之

第二十四條 世襲財產ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戶主及ヒ滿
 二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬
 會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大
 臣ノ許可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコト
 ヲ得

第二十五條 世襲財産ニ關スル願書届書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ

要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條 此法ハ明治十九年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

○議長 發議ナキヲ以テ第二十二條乃至第二十七條ハ可決ト認め此

ニ第三讀會ヲ畢ル例ニ仍リ修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午後第二時閉場

元老院會議筆記明治十九年四月十四日

○第五百九號議案軍用電信ニ係ル第一第二第三讀會

議長東久世通禧

出席議員

- 二番 小畑 美稻
- 三番 長松 幹
- 四番 久我 通久
- 五番 三浦 安
- 六番 稅所 篤
- 九番 田邊 太一
- 十番 大給 恒

十一番	伊丹重賢
十二番	長岡護美
十三番	石田英吉
十八番	宮本小一
十九番	楠本正隆
二十番	大久保一翁
二十一番	林友幸
二十二番	柴原和
二十三番	神田孝平
二十四番	何禮之
二十五番	榎村正直

二十七番	福原實
二十八番	津田真道
二十九番	橋口兼三
三十一番	鍋島幹
三十四番	西村貞陽
三十五番	永山盛輝
三十六番	西周
三十八番	壬生基修
三十九番	町田久成
四十番	中村正直
四十一番	渡邊清

四十二番	楫取 素彦
四十三番	上杉 茂憲
四十八番	村田 保
四十九番	神山 郡廉
五十番	河田 景與
五十二番	野村 素介
五十三番	津田 出
五十四番	由利 公正
五十五番	中島 錫胤
五十六番	福羽 美靜
五十七番	山口 尙芳

五十八番	穴戸 璣
六十二番	清岡 公張
六十五番	中村 弘毅
六十七番	原田 一道
六十九番	大迫 貞清
七十二番	加藤 弘之
七十五番	長谷部辰連
内閣委員	賢光
法制局參事官廣橋	賢光
法制局參事官水野	遵

午前第十時開場

○議長 本日ハ第五百九號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例

ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 森山茂 朗讀

明治十八年五月第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者同條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ同條例第六十八條第二項ニ依リ處斷ス

同條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○番二番 水野

外 遵

本案ノ發付ヲ要スル理由ヲ略陳セン抑モ軍用電信ハ

明治十三年二月陸軍省甲第八號軍用電信隊概則ニ依リ設置スル所ニ係リ漸次ニ之ヲ擴張シタリシモ其妨害者ノ如キハ纔ニ刑法第六十四條ノ明文ニ據リテ處斷スルニ過キス然ルニ普通電信ノ取締法ハ既ニ明治十八年第八號布告ノ電信條例アリ其條ハ數十ノ多キヲ成シ以テ其裁制上更ニ缺ル所ナキニ獨リ軍用電信ノミ之ヲ制外ニ置クハ權衡宜キヲ得ス故ニ往往其妨害者ノ處分ニ於テ適從スル所ニ困シメリ因テ今其要用ナル部分ヲ電信條例ニ取リテ本案ヲ制定シ以テ軍用電信ニ係ル妨害者ヲ處分セントス以上ニ述ル所ノ外ニハ別ニ他ノ理由ノ存スル無シ各位此意ヲ領シ速ニ議定センコトヲ望ム

○五番^{三浦安}

本案ノ大體ニハ異議ヲ存セス唯其布告文中第二項第三項ニ同條例ト言ヘルヲ共ニ改メテ電信條例ト爲シ一目瞭然ニ其電信條例タルコトヲ知ラシムルヲ可トス個ハ第二讀會ニ修正說ヲ提出セン本官今特ニ建議ス本案ハ單簡ニシテ發布ノ理由モ亦明白ナレハ本日第一讀會ヲ畢ラハ直ニ引續キテ第二讀會第三讀會ヲ開カシコトヲ望ム

○四十八番^{村田保}

本官モ本案ニ對シテハ其大體上ニ異論ヲ懷カス然ルニ只今内閣委員ノ辨明セシニモ拘ハラス疑義ヲ生スル有リ因テ之ヲ質サン抑モ軍用電信ノ施設ハ最初布告ヲ以テセスシテ陸軍省ノ達ニ起因ス是ヲ以テ未タ公然ニ一般人民ニ告知セル有ラス今回俄然トシテ此布告ヲ發セハ前後適應ヲ失スルノ嫌ヒ無キヲ得ンヤ

又本案ニ十八年第八號布告電信條例第五十八條以下ノ數條ヲ列掲シ軍用電信ニモ亦之ヲ適用スト言フ而シテ其第五十八條ニハ「電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト定メリ是レ電線ヲ切斷セスト雖モ不通ニ致シタル者ノ處斷法ナリ翻テ刑法ヲ按スルニ其第六十四條ニハ「電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト定メリ是レ條線ヲ切斷シ不通ニ致シタル者ノ處斷法ナリ故ニ電線ヲ切斷セスシテ不通ニ致シタル者ハ電信條例第五十八條ヲ適用スルヲ得ルモ其之ヲ切斷シテ不通ニ

致シタル者ノ如キ更ニ適用ス可キ法文ヲ存セス然ラハ則チ一方ニ
ハ罰法アリテ一方ニハ罰法ナシ本案ニ之カ明示ヲ缺クハ何ノ故ソ
又本案ハ電信條例第六十一條ヲ掲ケ以テ之ヲ軍用電信ニ適用セン
トス然ルニ此第六十一條ハ特ニ水底電信ニ關シ敢テ陸上電信ニ係
ラサル者ナリ本官未タ軍用電信ノ水底ニ設クル有ルヲ聞カス嘗テ
歐洲ノ軍用電信ヲ見聞セシニ猶ホ我カ軍用電信ノコトク多クハ陸
上ニ架シ器械其他都テ車載シテ運搬ヲ便ニシ迅速ニ之ヲ設クル者
ノ如シ知ラス軍用電信モ亦水底ニ設クル有リヤ敢テ説明ヲ煩ハス
○外一番廣賢光 四十八番ノ質問ニ答ヘン見今軍用水底電信線ノ設ケ
無キモ他日ニ之ヲ要スル時機ニ會フ有ラン又戰時ニ當テハ普通ノ
水底電線ヲ以テ陸軍ノ所轄ト爲シテ軍用ニ充ルコト無キヲ得ス且

前キニ陸軍省ノ意見ヲ問ヒシニ同シク此ニ記載センコトヲ乞ヘリ
是レ本案ニ電信條例第六十一條ヲモ掲クル所以ナリ又本案ニ電信
條例ノ各條ノミヲ列記シ言ノ刑法ニ涉ル有ラス即チ軍用電信ニ係
ル妨害者ノ處分ニハ特リ電信條例ヲ適用シ而シテ刑法ハ適用セサ
ルカ如シト云フモ本員ヲ以テ之ヲ觀レハ必ス其疑ヒ無キヲ保スル
ヲ得ン何トナレハ本案ニ電信條例中ノ數條ヲ掲ケテ軍用電信ニ適
用スト爲セシハ是レ軍用電信ニ電信條例中ノ數條ヲ適用スルヲ示
スニ在リテ敢テ此カ爲メニ刑法原則ノ用捨ニ關係セサレハナリ畢
竟刑法ハ普通ニシテ獨リ軍用電信ノミナラス私設電信ニモ亦其裁
制ヲ與フル者トス

○十一番伊丹重賢 本官モ本案ノ大體ヲ賛成スルモ聊カ質問ヲ要スル有

○第一項ニハ電信條例第七十一條ヲ掲ケ第二項ニハ之ヲ除ケリ此第七十一條ハ即チ疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滞セシ者ヲ處分スル定法ナルヲ以テ之ヲ第一項ニ掲クルハ素ヨリ當然ナリ而シテ其之ヲ第二項ニ掲ケサリシハ電信條例ニ於テモ第六十六條ノ「電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ニ照シ一等ヲ加フ」ト言フニ止メテ此第七十一條ノ所爲ヲ間擬セサルヲ以テ本案モ亦然セシナラン然レトモ軍用電信ハ一種特別ノ者ニシテ其事極メテ機密ヲ要シ些少ノ過失モ時ニ軍機ヲ誤ルノ虞レ無キヲ得ス然ルヲ第二項ニ之ヲ掲ケサルハ果シテ何ノ理由ニ出テシヤ

○外番 廣橋 賢光

本案ノ第一項ニ電信條例第七十一條ヲ掲ケテ第二項

ニ之ヲ掲ケサルハ電信條例ト其例ヲ同ウセシニ過ス若夫レ軍機ヲ漏洩スル等ノ所爲ハ陸軍刑法ヲ以テ處斷ス可ク本案ニハ其要用ヲ見サルノミ

○柴原 和 二十二番

内閣委員ノ説明ヲ聞キテ彌本案ノ必要ナルヲ信シ

之ヲ賛成シ只聊カ質問セン抑モ軍用電信ハ十三年中ニ陸軍省達ヲ以テ之ヲ創メ而シテ未タ一般人民ニ此事ヲ布告セル有ラス然ルヲ本案ノ如ク冒頭ヨリ電信條例某條某條ハ軍用電信ニモ之ヲ適用スト言ヘハ猶ホ既設ノ法律ノ存スル有リテ更ニ之ニ電信條例ヲ適用スル者ノコトキ看ヲ呈シ或ハ隨テ人民ニ疑團ヲ生セシメン然レハ則チ今新タニ本案ヲ發シテ軍用電信ノ妨害者ヲ處分セントナラハ宜ク普通ノ公文式ニ從ヒ第一條何々第二條何々ト其法文ヲ明掲ス

ヘキニ本案ノ此ニ出テサルハ蓋シ從前ヨリ斯ル適例ノ在ル有ルニ由ルヤ又十一番ノ質問セシ一事ハ本官モ亦此ヲ疑フ無キ能ハス元來本案ハ單ニ軍用電信ニ關係スル者ナルヲ以テ傳送配達等ハ或ハ要用ニ非サル可キモ第七十一條ノ成文ヲ觀ルニ是亦軍用電信ニモ要用ナルカ如シ思フニ若シ此條ヲ掲ケスンハ假令電信文ヲ遺失スル有ルモ之ヲ罪ニ問フニ由シ無ラン

○外番廣橋賢光

質疑者ハ軍用電信ノ陸軍省達ヲ以テ創行シ未タ布告

ヲ發セル有ラス而シテ今直チニ本案ヲ發セントスルハ是レ他ニ的例ノ存スルヤト問ヘリ因テ其例證ノ一二ヲ舉示センニ十七年四月第九號布達印紙類賣捌規程第一條ニ「印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍恩給令巡查看守給助例ニ依テ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者」ト

言ヒ其他ノ條項ニモ往往ニ恩給ノ事項ヲ載ス而シテ其陸海二軍恩給令ハ初メ布告ニ出タルニ非ス又十六年十月第九十七號布告醫師免許規則第十三條ニ「内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ」ト掲クルモ其中央衛生會ノ設置ハ布告ヲ以テ一般ニ告知セサリシナリ又電信條例第七十一條ニ關スル質問ハ已ニ十一番ニ答辨セシ如ク權衡上自ラ然ラサルヲ得サルニ由レリ蓋シ是レ軍用電信妨害者ノ處分ハ務メテ普通電信妨害者ノ處分ト同一ニ出テシメンコトヲ期ス故ニ電信條例ニ問ハサル事項ハ本案モ亦之ヲ問ハサルナリ

○三十一番鍋島幹

本官ハ更ニ異議ヲ懷カス故ニ五番ノ建議セル如ク

本日直チニ第二第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル五番ハ本日直チニ第二第三讀會ヲ開カンコトヲ建議セリ因テ其可否ヲ議場ニ問ハン五番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十三人

○議長 多數ナルヲ以テ直チニ第二讀會ヲ開キ且第三讀會ニ及ホス可シ

書記官 森山茂 朗讀

明治十八年五月第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者同條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ同條例第六十八條第二項ニ依リ處斷ス

同條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○四十八番 村田保 本官ハ前會ニ於テ二義ノ質問ヲ爲シ其答辨ヲ得テ

一ハ之ヲ領會セシモ一ハ未タ領會スル能ハス抑モ電信條例第六十一條ハ水底電線ニ關スル事項ヲ言フ者ニシテ本案ニ要用ナラサルヤ論ヲ待タス然ルニ內閣委員ノ言ニ依ルニ之ヲ此ニ掲クルハ今日未タ軍用水底電線ノ設ケ有ラサルモ他日ノ爲メニ豫備シ且其陸軍

省ノ請求シタルニ由ルト云ヘリ本官ハ此辨明ヲ得テ彌其適當ナ
ラサルヲ信ス蓋シ法令ハ目前ニ必要ナルヲ認メテ之ヲ設ク其未タ
要用ナラサルニ之ヲ設クルハ所謂徒法ニ非スシテ何ソ内閣委員ノ
説明スル如クンハ獨リ水底電線ノミナラス鐵道ニモ時ニ軍用ニ充
ツ可キ有リ彼ノ風船ノ如キ最モ軍用ニ功效ヲ有ス是等モ一一之ヲ
法文ニ豫備セサルヲ得サラントス實ニ無用ノ婆心ナラスヤ故ニ本
官ハ本案中ヨリ第六十一條ノ五字ヲ削除セント欲ス

○議長 四十八番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ問題ニ上ラス

○五番 三浦安 本官ハ前會ニ述ヘタル如ク本案ノ第二項及ヒ第三項ノ

同條例ト言ヘル「同」ノ一字ヲ電信ノ二字ニ換ヘント要ス本案ノ電
信條例ト言ハスシテ同條例ト言ヘル所以ノ理由ヲ知ラサルモ蓋シ

略記セシナラン法律ノ文辭ハ尤モ明晰ナルヲ善シトス且ヤ第二項
ノ上文ニ「軍用電信事務ヲ奉スル者」ト言ヘルヲ以テ或ハ別ニ軍用
電信條例ナル者ノ存在スル如キ嫌ヒ無キ能ハス彼此ヲ按スレハ寧
口重複ニ涉ルニ似タルモ意義ヲ正確ナラシムルヲ可トス

○五十二番 野村素介 賛成

○議長 五番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十一番 伊丹重賢 現問題ヲ賛成ス本官モ法文ハ明確ナルヲ望ム五番ノ
說ノ如ク三所共ニ「同」ヲ電信ニ改作セン

○二十二番 柴原和 第二讀會ノ開會ニ例規ノ時日ヲ與ヘハ尙ホ思考ヲ
加ヘテ修正說ヲ提出セントセシニ既ニ引續キテ第二第三讀會ヲ開
クニ決セシ以上ハ其餘暇ヲ得サルモ先ツ五番ノ動議ヲ賛成ス

○三十一番 鍋島 幹

本官ノ旨意ハ問題説ヲ賛成スルニ在ルモ少シク他ニ旨意ノ在ル有リ本案ノ第二項ニ「普通刑法」云云ト言ヘリ試ニ電信條例第七十三條ヲ按スルニ俱ニ是レ未遂犯罪ノ條件ニシテ電信條例ニハ普通ノ文字ヲ掲ケス惟タ刑法ト言フ單ニ刑法ト言ヘハ普通刑法ノ事タルヤ明白ナリ然レハ則チ普通ノ文字ハ行ニ屬ス本官ハ此二字ヲ削ル修正説ヲ提出セント欲スルモ五番ノ動議ニシテ成立セハ之ヲ提出スルヲ得ス因テ請フ五番ノ動議ノ取決ハ之ヲ第二項ニ止メ而シテ第三項ハ別ニ問題ニ付センコトヲ

○議長 三十一番ニ告ク五番ノ動議ハ第二項ヨリ第三項ニ及ヘリ今之ヲ分割スルニ難シ宜ク第三讀會ヲ待テ提出スヘシ

○三十一番 鍋島 幹 命ニ從ハン

○二十二番 柴原 和

議長ハ三十一番ニ對シ第三讀會ヲ待テ其修正説ヲ提出ス可キヲ告ケリ然ルニ第三讀會ハ第二讀會ト例ヲ異ニシ五人以上ノ賛成ヲ得ルニ非サレハ問題ニ上スヲ得ス又其發言ニモ制限ヲ存ス寧ロ本會ニ於テ十分ニ討論スルヲ得タリトス

○議長 五番ノ動議既ニ問題ト爲レル以上ハ第三讀會ニ於テ提出スルヲ可トス

○二十二番 柴原 和

本官ハ只其討議ヲ盡サンコトヲ要スルナリ議長ノ採用スル無クンハ已ムノミ

○五番 三浦 安

三十一番ノ説ハ專ラ意味ニ關シ本官ノ説ハ偏ニ字義ニ係ル此ノ如ク兩説ノ議場ニ並ヒ出ルニ當リテ分段取決スルヲ請求スレハ往往各別ニ問題ニ付セシ前例アルヲ覺フ因テ二十二番ノ言

フ所ヲ採用セラレンコトヲ建議ス

○議長 五番ノ建議セル所ハ二十二番ノ言ニ同シ而シテ三十一番ノ末項修正説ハ稍ヤ意義ニ關スル者ノ如シ因テ衆議ニ問ヒ多數ノ同意ヲ得ハ分割シテ問題ニ付セン五番等ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 少數ナルヲ以テ分段取決ノ請求ハ行ナハレス

○議長 五番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十人

○議長 多數ナルヲ以テ五番ノ修正説ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢リ直チニ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

明治十八年^{五月}第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者同條例第五十八條第五十九條第六十條第

六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ

各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ同條例

第六十八條第二項ニ依リ處斷ス

同條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ

遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○三十一番 鍋島 前會ニ陳述セシ如ク本案末項ノ「普通刑法」ト言ヘ

ル「普通」ノ二字ヲ削除セン是レ別ニ趣意アルニ非サルモ電信條例第七十三條ニハ惟タ刑法ト言フノミ普通ノ文字ヲ掲ケス本案ハ原ト電信條例ヲ主トシテ設クル者ナレハ其一樣ニ出ツ可キハ論ヲ待タス然ルニ彼レニ無ク此レニ有レハ却テ疑惑ヲ生セン寧口之ヲ削除スルノ優ルニ如カス希クハ賛成者ヲ得テ問題ニ上ランコトヲ

○十二番 長岡護美 賛成

○四十三番 上杉茂憲 賛成

○二十九番 橋口兼三 賛成

○二十八番 津田真道 賛成

○四番 久我通久 賛成

○議長 三十一番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十一番 伊丹重賢 本官ハ問題說ニ同意セス電信條例ニハ單ニ刑法ト言

フモ是レ一般ニ通スルカ故ナリ本案ハ軍用電信ヲ主ト爲ス故ニ普通刑法ト指稱セシナラン蓋シ普通ノ文字ヲ削除スルモ敢テ解ス可ラサルニ非ス然ルニ既ニ陸海軍共ニ刑法ノ設ケ有レハ其區別ノ瞭然タルヲ要ス寧口本案ノ如ク普通刑法ト言フヲ其當ヲ得タリトス

○二十二番 柴原和 原案ヲ可トス十一番ハ孰レニ決スルモ強テ意トセ

サル如キモ本官ヲ以テ之ヲ觀レハ普通ノ二字ヲ削除セハ大ナル齟齬ヲ生セン原來本案ハ軍用電信ニ關スルヲ以テ或ハ陸海軍ノ刑法ヲ適用スル無キヲ保セス故ニ確カニ本案ハ專ラ軍用電信ニ關スルモ其罰法ヲ適用スルニハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照ス可キコトヲ明揭シテ毫モ疑ヲ致ス無ラシムルヲ要ス

○五十七番山口 尙勞 本官ハ現問題ヲ賛成ス抑モ單ニ刑法ト云ヘハ問ハスシテ是レ普通刑法タルコトヲ知ル陸軍刑法海軍刑法ハ共ニ其某軍ノ冠詞ヲ加ヘテ之ヲ區別ス故ニ陸軍刑法海軍刑法ノ中ニ在テハ普通刑法ト指稱ス可キモ他ハ一切ニ普通ノ文字ヲ用ヒスシテ其普通刑法タルコトヲ知ル可シ本案ノ普通ノ文字ハ眞ニ無用ニ屬ス又前會ニ某議官ノ說ニ因テ原案ノ同條例ト言ヘルヲ電信條例ト修正セシモ若シ條ヲ別ニシテ筆ヲ立テハ或ハ其說ノ如クス可キモ本案ハ一行一連ノ文體ナレハ同條例ト言フテ可ナリ特ニ電信條例ト改ムルノ必要ヲ見ス苟モ其說ヲ出ス無クシハ已ム然ルモ強テ道理ニ合ストシテ立論スルナラハ本官其然カラサル所以ヲ一辨セサルヲ得サルナリ

○三十一番鍋島 幹 本官ノ普通ノ二字ヲ削除スル修正說ハ問題ト爲リシニ反對論者ハ此二字ヲ要用ナリトシ若シ之ヲ削除スレハ陸海軍刑法ト區別スルニ難シト說ケリ然ルニ陸軍刑法海軍刑法共ニ別ニ未遂犯罪ノ例ヲ掲ケス而シテ普通刑法ヲ適用スル者ト爲セリ然レハ則チ其未遂犯罪者ハ陸海二軍共ニ普通刑法ニ依テ處斷スルハ論ヲ待タス故ニ此ニ普通ナル文字ノ有無何如ニ拘ハラスシテ普通刑法ヲ適用スルナリ反對論者ハ單ニ刑法ト言ヒ普通刑法ト言ハサルトキハ陸海軍刑法ト混淆スト說クモ試ニ陸海軍刑法ヲ一閱セヨ未遂犯罪ヲ處斷スル正條ヲ掲ケス普通刑法ヲ適用スル者ト定メタル以上ハ何ソ陸海軍刑法ヲ誤用スルノ恐レ有ラン是レ其陸海軍刑法ヲ熟覽セサルノ致ス所ナラン然ルニ齊ク是レ未遂犯罪ヲ處斷スル

條則ニシテ本案ノミ普通ノ文字ヲ加ヘ而シテ其本源タル電信條例ニハ單ニ刑法ト言フ如キ獨リ法制ノ體面ヲ得サルノミナラス彼此ヲ照考シテ疑惑ヲ生スル有ラン故ニ本官ノ旨意ハ主トシテ之ヲ救フニ存スルナリ

○二十五番 榎村正直

本官ハ問題說ヲ非視ス陸海軍刑法ニハ普通刑法ヲ適用スト言フヲ以テ其刑罰ハ同一ニ歸シ敢テ罣慮ヲ須ヒサルモ本案ハ軍用電信ニ係ル處分法ナレハ宜ク原案ノ如クスヘシ彼ノ電信條例ハ普通一般ニ施行スル法律ナレハ普通ノ文字ヲ用ヒスシテ單ニ刑法ト言フヲ當然ナリトス彼此ノ區別此ノ如クニシテ始メテ其宜シキニ適スルヲ見ルナリ

○議長 三十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ三十一番ノ動議ハ消滅ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル依テ例ノ如ク修正ノ理由ヲ具ヘ上奏セン散會セヨ

午前第十一時十分閉場

元老院會議筆記 明治十九年五月十四日

○第五百十號議案 陸軍軍人軍屬違第一讀會
警罪處分例ノ件

議長 大木 喬任

出席議官

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 田中 芳男 |
| 四番 | 石田 英吉 |
| 五番 | 西村 貞陽 |
| 六番 | 海江田信義 |
| 八番 | 福原 實 |
| 九番 | 大久保一翁 |
| 十一番 | 伊丹 重賢 |

十四番	野村素介
十六番	宮本小一
十七番	加藤弘之
十八番	柴原和
二十一番	清岡公張
二十二番	壬生基修
二十三番	宍戸璣
二十四番	楫取素彦
二十七番	原田一道
二十八番	調所廣丈
二十九番	三浦安

三十一番	神山郡廉
三十三番	中村弘毅
三十四番	岩村定高
三十六番	本田親雄
三十七番	西周
三十八番	田邊太一
三十九番	神田孝平
四十番	長松幹
四十一番	小畑美稻
四十二番	榎村正直
四十四番	岡内重俊

四十六番	林友幸
四十七番	橋口兼三
四十八番	渡邊驥
五十一番	中村正直
五十四番	東久世通禧
五十五番	永山盛輝
五十六番	大給恒
五十七番	村田保
五十八番	津田真道
五十九番	由利公正
六十番	河田景與

內閣委員
 一番外 法制局參事官周布 公平
 二番外 法制局參事官牧野 伸顯
 同

六十一番	久我通久
六十二番	長谷部辰連
六十三番	何禮之
六十五番	伊東祐磨
六十六番	山口尙芳
六十七番	上杉茂憲
六十八番	長岡護美
六十九番	黑田清綱
七十一番	楠本正隆

午前第十時十分開場

○議長 本日ハ第五百十號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ從ヒ發議セヨ

書記官 森山 茂 朗讀

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

- 第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲スコシ
- 第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知スコシ
- 第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スル

コトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

- 第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出スコシ

- 第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致スコシ

- 第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

- 第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其

執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○外一番周平 例ニ仍リ本案ノ旨趣ヲ陳述セン十八年九月違警罪即

決例ヲ發布セシ以來陸軍軍人軍屬ノ犯罪ハ實際憲兵部ニ於テ之ヲ處分シ憲兵部ヲ設ケサル地方ハ警察署ニ於テ之ヲ處分セリ然ルニ陸軍治罪法ノ原則ニ依レハ軍人軍屬ハ裁判ノ宣告ニ對シ不服ヲ唱ヘテ上訴スルヲ得サル者ナルニ彼ノ違警罪即決例ハ之ニ反シ上訴ヲ爲スヲ得ル者ナルカ故ニ軍人軍屬ヲ處分スルニ甚タ陸軍治罪法ノ原則ニ背反ス蓋シ軍人軍屬ノ犯セシ違警罪ノ即決處分ニ對シテハ其正式裁判ヲ軍法會議ニ請求スルヲ得セシメ而シテ軍法會議ノ裁判ニ對シ上訴スルヲ得サヲシメハ始メテ陸軍治罪法トノ抵觸ヲ

除クヲ得ヘク然ラサレハ陸軍ノ組織ヲ紊亂シ軍律ヲ肅整ナラシムル能ハス是レ本案ノ發布ヲ要スル大體ノ理由ナリ其細節ノ如キハ質問ニ應シ逐條ニ之ヲ辨セン

○五十七番村田保 本案ノ旨趣ハ之ヲ領會ス實際ニ於テ軍人軍屬ノ違

警罪ヲ犯セシ者ハ日前布達ヲ以テ處分シタルヲ今後法律ヲ以テ處分スルニ改メントス而シテ現行法ト本案トノ差異ハ軍人軍屬ヲシテ正式ノ裁判ヲ軍法會議ニ請求セシムルニ在リ是レ尤モ事宜ニ適セリ本案ヲ通覽スルニ其調査頗ル詳密ニシテ多ク批難ヲ容ル可キ無シ然ルモ第二讀會ニ至ラハ各條中少シク修正ヲ加ヘント欲スル有レハ豫メ內閣委員ニ質問セン第一條ニ「陸軍軍人軍屬」ト言ヒテ海軍軍人軍屬ヲ掲ケス是レ海軍ハ措キテ問ハサルヤ又ハ日後ニ於

テ海軍ニ關スル法律ヲ發布セントスルヤ第二條ニ「被告人ヲ留置シタルトキハ」云云ト言ヒテ其通知ノ期限ヲ示サス凡ソ此ノ如キ法律文ニハ直チニノ文字ヲ下セルハ通例ナルニ本案ノ如ク此文字ヲ下ササレハ其翌日ニ於テ通知シ或ハ判決ノ後ニ於テ通知スルモ可ナルカ如シ然ルニ軍人軍屬ノ犯罪ノ如キハ特ニ直ニ通知スルヲ至當ノ措置ト爲ス可キニ似タリ十四年九月陸軍省布達陸軍警察假規則第二十三條ニハ「直チニ本人所管へ通報スヘシ」ト言ヘリ又本條ニ生徒ヲ掲ケス陸軍士官學校幼年學校ノ生徒ニシテ違警罪ヲ犯セシ者ハ長官ニ通知スルヤ又ハ隊長ニ通知スルヤ士官生徒ノ如キハ素ヨリ軍人ノ部内ニ入ル可キヤ明白ナリ第五條ニ「管轄軍法會議ノ所管司令官」ト言ヘリ然ルニ管轄ノ文字ハ既ニ前第二條ニ「其裁

判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ」ト言ヘハ特ニ本條ニ管轄ノ文字ヲ掲ケサルモ其意義ハ素ヨリ分明ナリトス若シ之ヲ掲クルハ務メテ分明ナラシムルヲ要スルノ旨意ナリト爲セハ第七條第八條ニモ皆此文字ヲ掲ク可キニ似タリ然レトモ本官ハ本條ニ之ヲ掲クルヲ須ヒスト信ス又第八條ニ「上訴ヲ爲スコトヲ得ス」ト言ヘルモ陸軍治罪法ニ於テ既ニ上訴ヲ爲スヲ禁セルニ故サラニ此禁止ノ言辭ヲ掲クレハ或ハ重罪ニハ上訴ヲ爲スヲ得サルモ輕罪ニハ上訴ヲ爲スヲ得ルヤノ疑惑ヲ招カン故ニ之ヲ改メテ正式裁判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得スト言ハハ意義安穩ナラン然ルヲ故サラニ「軍法會議ノ裁判」ト言ヘルハ何如ナル理由ノ存スルヤ

出席

二十五番

安藤 則命

○番二番牧野 伸顯 五十七番ノ質問ニ答ヘン第一條ニ海軍ヲ掲ケサルハ敢テ陸海軍ヲ區分セルニハ非ス本案ヲ調査スルニ當リ此事ニ罣慮シタルモ實際現今ノ海軍ノ景況タル未タ陸軍ト同シク本案ヲ施行ス可キ準備ノ成ラサルヲ奈何セン海軍ノ軍法會議ハ獨リ横須賀ニ一所ヲ置クノミ長崎其他ノ海港ノ如キ上陸スル水夫等ノ違警罪ヲ犯セル有レハ其處分甚タ困難ナリ之ヲ實際ニ徵スルニ陸軍ト同一ノ處分ヲ爲ス能ハス故ニ海軍ヲ掲ケサルナリ第二條ノ「被告人ヲ留置シタルトキハ」ノ下ニ直チニ「文字ヲ入レサルハ本條ニ之ヲ入レサルモ實際上直チニ通知スル手續ヲ爲スナレハ事ニ妨ケスト爲スニ過ス但シ此文字ヲ加フルモ敢テ不可ナル無ラン又陸軍生徒ハ陸軍治罪法ニ於テ之ヲ軍屬ト看做スヲ以テ其所屬長官ニ通知ス

ル者トス第五條ノ「軍法會議」ノ上ニ「管轄」ノ文字ヲ置キタルハ陸軍治罪法ノ文例ニ倣ヒ其意義ヲ明晰ナラシムルノミ第八條ノ「軍法會議ノ裁判」ハ正式裁判ト爲スヲ妥穩ナリト云フモ本條ハ軍法會議ノ正式裁判ト言フノ意ナルヲ其正式裁判ノ文字ヲ省畧シタリ蓋シ本案ハ軍法會議ヲ以テ本主ト爲セハ單ニ正式裁判ト曰ハンヨリハ寧ロ軍法會議ト曰フニ如カス因テ此ノ如ク立案セシナリ

○五十七番村田 保 內閣委員ノ辨明ヲ領承ス然レトモ生徒ヲ以テ軍屬ト爲シ治罪法ヲ引テ證明セシハ誤レルニ似タリ陸軍刑法第九條ニ「陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ」ト言フ其軍屬ニ非サルヤ明白ナリ

○番一周布 公平 五十七番ハ番外二番ノ陸軍生徒處置ノ質問ニ對シテ

治罪法ヲ引タルヲ誤リト爲シ宜ク刑法ヲ引クヘシト云フモ結局同一處分ニ出テ寧ロ治罪法ヲ引クヲ當レリトス刑法ハ間接ノ引證タルノミ治罪法ニ生徒ノ處置ヲ示シ軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ掲クル者ヲ謂フト言ヒ而シテ刑法第九條ニ徵スルニ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シト言フ既ニ治罪法ニ刑法ノ條項ヲ引キタルトキハ本案ハ處分例ニ係ルヲ以テ治罪法ヲ引クヲ至當ト爲ス

○五十七番 村田保 番外一番ノ只今ノ説明ハ甚ダ理會シ難シ前キニ番外二番ハ治罪法ニ於テ生徒ハ軍屬ナルヲ示セリト答辨シタルヲ以テ本官ハ軍屬ニ非ス軍人ナリト云ヒシノミ蓋シ番外二番ハ一時誤認セシナラン而シテ番外一番ノ答辨ノ如キハ全ク正鵠ヲ失スル者

トス

○番二番 牧野伸顯 前キノ答辨ハ少シク言辭ノ足ラサリシヲ以テ五十七番ノ怪訝ヲ招ケリ全ク五十七番ノ云フ所ノ如シ

○六十六番 山口尙芳 本案ハ實ニ至當ノ法律ナルヲ以テ第一讀會ノ初メヨリ五十七番ノ外ニハ質問ヲ發スル無シ因テ速ニ第一讀會ヲ終ルヲ望ム

○十八番 柴原和 本官モ大體ヲ賛成ス本案ハ最モ時宜ニ適セリ唯第一條ニ海軍ヲ掲ケサルヲ怪ミシモ内閣委員ノ辨明ニ因テ海軍ハ諸事未タ整備セサル爲メニ今唯陸軍ノミヲ掲ケタルコトヲ了解シ復タ他ニ疑點ノ存スル無シ速カニ第一讀會ヲ終ランヲ望ム

○議長 第一讀會ハ此ニ終ル第二讀會ハ來ル十七日ニ之ヲ開カン本

日ハ散會セヨ

午前第十時五十五分閉場

元老院會議筆記明治十九年五月十七日

○第五百十號議案 陸軍軍人軍屬違第二及第三讀會

議長 東久世通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 五番 | 西村 貞陽 |
| 六番 | 海江田信義 |
| 八番 | 福原 實 |
| 九番 | 大久保一翁 |
| 十一番 | 伊丹 重賢 |
| 十四番 | 野村 素介 |
| 十五番 | 鍋島 直彬 |

十六番	宮本 小一
十七番	加藤 弘之
十八番	柴原 和
二十一番	清岡 公張
二十二番	壬生 基修
二十四番	楫取 素彦
二十七番	原田 一道
二十八番	調所 廣丈
二十九番	三浦 安
三十一番	神山 郡廉
三十三番	中村 弘毅

三十四番	岩村 定高
三十六番	本田 親雄
三十七番	西 周
三十八番	田邊 太一
三十九番	神田 孝平
四十番	長松 幹
四十二番	榎村 正直
四十六番	林 友幸
四十七番	橋口 兼三
四十九番	鍋島 幹
五十一番	中村 正直

五十五番	永山	盛輝
五十六番	大給	恒
五十七番	村田	保
五十八番	津田	真道
五十九番	由利	公正
六十番	河田	景與
六十一番	久我	通久
六十二番	長谷部	辰連
六十三番	何	禮之
六十四番	津田	出
六十五番	伊東	祐磨

六十七番	上杉	茂憲	
六十八番	長岡	護美	
七十番	渡	正元	
七十一番	楠本	正隆	
七十二番	町田	久成	
內閣委員	法制局參事官	周布	公平
番外	法制局參事官	牧野	仲顯
同	番外		

午前第九時三十五分開場

○議長 第五百十號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官 朗讀

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者四十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

○五十七番 村田 保 本條ヲ修正セン本案ニ據レハ被告人ヲ留置シタル通知ハ何ノ日ニ於テスルモ妨ケ無キニ似タリ因テ内閣委員ニ質問

シ其通知ハ甚タ迅速ナルヲ要スルモ是等ハ細則ニ讓リ以テ此ニ明示セサルヲ知レリ然レトモ十四年陸軍省第二號布達陸軍警察假規則第二十三條ニモ「犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ本人所管へ通報スヘシ」ト言ヒ即チ「直チニ」ノ三字ヲ以テ迅速ニ通知ヲ要スル意ヲ明セリ本案モ亦宜ク之ヲ揭示スヘシ乃チ「留置シタルトキハ」ノ下ニ直チニノ三字ヲ加ヘシ又前會ニ陸軍士官學校等ノ生徒ヲ留置シタルトキハ何人ニ通知ス可キヤ本案ハ明瞭ヲ缺クト云ヒシモ熟考スルニ「所屬ノ長官」ノ文字中ニ包含スト看ルモ可ナルカ如シ故ニ本日ハ獨リ直チニノ三字ヲ加フル修正ノミヲ提出ス

出席 四十一番 小畑 美稻
六十六番 山口 尙芳
同

○五十一番 中直村 賛成

○四十七番 橋口 兼三 賛成

出席 一番 田中 芳男

同 四番 石田 英吉

○議長 五十七番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス他ニ發議ナクンハ決ヲ取ン其修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十九人

○議長 多數ナルヲ以テ修正説ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

○議長 發議ナキヲ以テ本條ハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

○議長 本條ハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

○議長 本條ハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要ヒサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

○議長 本條ハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

○議長 本條ハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第八條 軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○五十七番 村田 保 本條ニモ修正ヲ加ヘン前會ニ略陳セシ如ク「軍法會

議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス」ト言フハ文辭ヲ成サス且ヤ軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得サルハ素ヨリ當然ノ事理ナルヲ以テ陸軍治罪法ニハ特ニ之ヲ明記セス又軍法會議ノ裁判ト言ヘル熟語ハ陸軍治罪法ニモ其例ヲ見ス加之本案ニ據レハ軍法會議ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得サルモ正式ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ルヤノ嫌ヒ有リ故ニ正式裁判ノ言渡ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得スト修正スルヲ善シトス此ノ如クセハ第三條ノ「即決ノ言渡ニ對シテハ」云云及ヒ第七條ノ「正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキ」云云ト言ヘルト相對照シ甚タ妥當ナルヲ信スルナリ

○四十九番 鍋島 賛成

○議長 五十七番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 周布 公平 正式裁判ノ言渡ト爲スモ其旨趣ハ本案ト異ナラサレ

ハ本員敢テ抗論セス只本案ニ「軍法會議」云云ト記載シタル理由ヲ陳センニ正式裁判ノ言渡ニ對シテ云云ト言ヘハ正式裁判ノ言渡ニ對シテハ一般ニ上訴ヲ爲スコトヲ許ササルニ似タリ然ルニ違警罪即決例ニ於テハ見ニ之ヲ許セリ故ニ此嫌ヲ避ケ軍法會議ノ正式裁判ノ言渡ニ對シテ云云ト言フヲ略セシニ在ルノミ各官ノ參考ニ供スル爲メニ之ヲ一辨ス

出席

二十三番 穴戸 璣

同

四十四番 岡内 重俊

○議長 五十七番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ五十七番ノ修正說ハ消滅ス他ニ發議ナクンハ決ヲ取ン本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

○十八番 柴原 和 建議ヲ爲ス本官ハ本案ノ要用ナルト明備ナルトヲ認メテ第一讀會ニ同意ヲ表シ且當時陸海二軍ニ對シテ同時ニ此法律ヲ施スヲ望ミシモ内閣委員ノ説明ニ因テ今先ツ本案ヲ陸軍ノミニ施サントスル旨趣ヲ領會シ復タ一モ異議ヲ存セス本案ハ今已ニ末條マテ議了セルニ其修正ヲ加ヘタルハ惟タ第二條ニ止マル本官ハ

是亦強テ要用ナラスト思惟スルナリ思フニ本案ノ斯ク容易ニ議了セルハ各官モ異議ヲ存セサルニ由レハ必スシモ故サラニ定規ノ日子ヲ經過スルヲ俟テ第三讀會ヲ開クヲ須ヒサル可シ因テ本會ヲ畢ラハ續テ第三讀會ヲ開クヲ望ム

○議長 本案ハ末條マテ議了セルヲ以テ此ニ第二讀會ヲ畢ル乃チ十八番建議ノ決ヲ取シ其建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十八人

○議長 多數ナルヲ以テ十八番ノ建議ニ決シ直チニ第三讀會ヲ開ク適宜三四條ヲ連帶シテ討議ニ付ス可シ

書記官 森山茂 朗讀

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ其直チニ所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知スヘシ

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキ

ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管
司令官ニ送致ス可シ

出席

四十八番

渡邊

驥

○議長 發議ナキヲ以テ第一條乃至第五條ハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキ
ハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキ
ハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其
執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ第六條乃至第八條ハ可決ト認メ此ニ第三讀
會ヲ畢ル例ニ仍リ修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン散會セヨ
午前第十時閉場

元老院會議筆記 明治十九年五月十日

禁傍聽

○第五百十一號議案

福島縣下東蒲原郡管轄替ノ件 第一二三讀會

議長 東久世 通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 田中 芳男 |
| 二番 | 岩下 方平 |
| 四番 | 石田 英吉 |
| 五番 | 西村 貞陽 |
| 九番 | 大久保一翁 |
| 十一番 | 伊丹 重賢 |
| 十四番 | 野村 素介 |

十六番	宮本 小一
十七番	加藤 弘之
十八番	柴原 一和
二十一番	清岡 公張
二十二番	壬生 基修
二十三番	穴戸 璣
二十四番	楫取 素彦
二十五番	安藤 則命
二十七番	原田 一道
二十八番	調所 廣丈
二十九番	三浦 安

三十一番	神山 郡廉
三十四番	岩村 定高
三十六番	本田 親雄
三十七番	西 周
三十八番	田邊 太一
三十九番	神田 孝平
四十番	長松 幹
四十一番	小畑 美稻
四十二番	榎村 正直
四十六番	林 友幸
四十七番	橋口 兼三

- 四十八番 渡邊 驥
- 五十一番 中村 正直
- 五十六番 大給 恒
- 五十七番 村田 保
- 五十八番 津田 真道
- 五十九番 由利 公正
- 六十番 河田 景與
- 六十一番 久我 通久
- 六十二番 長谷部辰連
- 六十三番 何 禮之
- 六十四番 津田 出

内閣委員 番外一番 法制局參事官水野 遵

午前第十時十分開場

○議長 本日ハ第五百十一號議案ノ第一讀會ヲ開ク布告案朗讀ノ後
 例ニ從ヒ發議セヨ

書記官 森山茂 朗讀

福島縣下越後國東蒲原郡ヲ新潟縣管轄トス

○外一番 水野

本案ハ只是レ一郡ノ管轄ヲ轉換スルニ止マリ格段ノ理由ノ存スルニ非ス但此蒲原郡ハ其地ノ越後國內ニ在ルヲ以テ之ヲ福島縣ノ管轄ト爲セハ本郡ト縣廳トノ距離甚タ遠クシテ郡民ノ不便ヲ感スル尠少ナラス且夫レ福島縣ハ舊若松縣ヲ合一セシ者ナレハ自ラ偏倚ノ弊ヲ存シ舊若松縣ノ人民ハ往往ニ苦情ヲ訴ヘ縣會ニ於テモ種種ノ紛議ヲ生シ爲メニ縣廳ヲ便宜ノ地ニ移サントコトヲ望ムニ至レリ然レトモ縣廳ヲ移ス如キ大ニ他ニ關係ヲ生スレハ今只其最モ縣廳ト距離セル東蒲原郡ヲ割キテ之ヲ新潟縣ノ管轄ト爲サントス本郡ヨリ新潟縣廳ニ至ルニハ道程十二里ナルモ福島縣廳ニ至ルハ之ニ陪ス其不便ナル想フ可シ各官此意ヲ領シ速ニ議決セシコトヲ請フ

○四十六番 林友幸

本案ハ最モ事宜ニ適セリ東蒲原郡ヲ新潟縣ノ管轄ト爲ササリシハ若松縣ノ舊ニ仍リシヲ以テナリ既ニ若松縣ノ存セサル以上ハ固ヨリ新潟縣ニ屬スルヲ至當トス地理ヲ以テ之ヲ考フルモ阿賀川ノ東蒲原郡ヲ經テ新潟ニ入り以テ舟楫ノ便ヲ通シ道路ノ如キモ亦頗ル順ナルヲ以テ郡民ハ皆其日用品ヲ新潟ニ仰ケリ必ス本案ノ如クセサル可ラス故ニ喜テ之ヲ贊成ス

○議長 他ニ發議ナクハ第一讀會ハ此ニ畢ル

○外一番 水野

本案ニ對シテハ別ニ發議モ無カル可ケレハ引續キ第二讀會第三讀會ヲ開カンコトヲ請求ス

○議長 內閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

福島縣下越後國東蒲原郡ヲ新潟縣管轄トス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ可決ト認ム第二讀會ハ此ニ畢ル

引讀キ第三讀會ヲ開キ朗讀ヲ省ク

○議長 發議ナクハ第三讀會ハ此ニ畢ル例ニ依リ可決ノ旨ヲ具シ上
奏セン各位散會セヨ

午前第十時二十分閉場

元老院會議筆記 明治十九年五月三十一日

○第五百十二號議案 罰金及追徴ニ係ル上告豫納金ノ件 第一讀會

議長 大木喬任

出席議員

- 一番 田中 芳男
- 五番 西村 貞陽
- 六番 海江田信義
- 八番 福原 實
- 九番 大久保一翁
- 十一番 伊丹 重賢
- 十四番 野村 素介

十七番	加藤 弘之
十八番	柴原 和
二十二番	壬生 基修
二十三番	穴戸 璣
二十五番	安藤 則命
二十七番	原田 一道
二十八番	調所 廣丈
二十九番	三浦 安
三十番	伊集院兼寛
三十一番	神山 郡廉
三十三番	中村 弘毅

三十七番	西 周
三十八番	田邊 太一
三十九番	神田 孝平
四十番	長松 幹
四十一番	小畑 美稻
四十二番	榎村 正直
四十四番	岡内 重俊
四十六番	林 友幸
四十七番	橋口 兼三
四十八番	渡邊 驥
四十九番	鍋島 幹

- 五十一番 中村 正直
- 五十四番 東久世通禧
- 五十五番 永山 盛輝
- 五十七番 村田 保
- 五十八番 津田 眞道
- 五十九番 由利 公正
- 六十二番 長谷部辰連
- 六十三番 何 禮之
- 六十四番 津田 出
- 六十五番 伊東 祐磨
- 六十七番 上杉 茂憲

- 六十九番 黒田 清綱
- 七十番 渡 正元
- 七十一番 楠本 正隆
- 七十三番 坂本 政均
- 内閣委員 番外 法制局参事官周布 公平
- 同 番外 法制局参事官平田 東助

午前第九時五十分開場

○議長 第五百十二號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ從

ヒ發議セヨ

書記官 森山 朗讀

罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金

又ハ追徴金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書記局ニ預置ク可シ否ヲサレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス若シ上告不當ナルトキハ大審院ニ於テ其全部又ハ幾分ヲ没入スルノ言渡ヲ爲ス可シ

○外一番周布公平 本案ヲ發布スル理由ハ極メテ簡單ナリ今聊カ之ヲ陳シ近年刑事上告ノ件數八年ヲ逐フテ増加シ大審院ハ黽勉鞅掌スルモ仍ホ許多ノ日子ヲ經過セサレハ判決ヲ下スニ至ラス其不便ナル想フ可シ夫レ施體刑ノ言渡ニ關シテハ刑法第五十一條ニ據リ上告ノ不當ナル時ハ後裁判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ計算スルヲ以テ濫訴ノ弊患ヲ生セサルモ科金刑ノ言渡ニ關シテハ上告ノ不當ナルモ別ニ裁制法ノ存セサルヲ以テ被刑者ハ自ラ不當ト信スルモ仍ホ上告ヲ

爲シ而シテ判決ニ至ルマテ其納ム可キ罰金若クハ追徴金ヲ融通スルノ惡弊頻リニ生セリ近コロ上告件數ノ増加セルハ一ニ此ニ職由ス是レ本案ヲ制設スル理由ナリ

○伊丹重賢 十一番 本案ノ大體ニ關スル意見ヲ陳シ原來控訴上告ノ方途ヲ開クハ人民ノ權理ヲ保護シ冤枉ヲ受ル無ラシムルニ在レハ苟モ其方途ヲ妨ケサルハ素ヨリ望ム所ナレトモ一概ニ然スル能ハス故ニ已ムヲ得ス本案ヲ賛成ス聞ク近來頻ニ上告ノ件數ヲ増加シ判決爲メニ澁滯シテ實際ニ障礙ヲ致スヲ免レスト是レ上告ノ日數間ハ罰金若クハ追徴金ヲ融通スル便益ヲ得ルニ出ルノ惡弊ナリト云フ其レ然ラン本官モ其然ルヲ信ス加之明治十八年第二號布告ヲ以テ控訴ヲ爲サス直チニ上告ヲ爲スヲ許シ且控訴ニハ金拾圓ヲ豫納ス

ル者ト定メタルニ上告ニハ一錢ヲモ豫納スルヲ要セス彼此既ニ權衡ヲ失セリ即チ米商會社條例株式取引所條例醬油稅則質屋取締規則等ノ違犯者ニ在テハ特ニ多額ノ罰金ヲ科セラルルヲ以テ彼レ自ラ其不當ナルヲ信スルモ尙ホ上告ヲ爲シ以テ判決ヲ受ルニ至ルマテ其納ム可キ金員ヲ融通スル者甚タ多シ故ニ曰ク已ムヲ得ス本案ヲ贊成スト爰ニ起立ノ次ニ一二ノ疑義ヲ内閣委員ニ質サン十分ノ一ナル金額ノ標準ハ何ニ取リシ乎又罰金トハ主刑及ヒ附加刑ノ罰金ヲ總稱スル乎其他本案ノ字句ニ關シテハ各官中修正ノ意見ヲ懷ク者或ハ之レ有ン本官モ聊カ意見ナキニ非サレトモ今先ツ以上ノ疑義ヲ質ス

○番二番 平田 東助

十一番ノ質問ニ答ヘン前キニ番外一番ノ陳ル如ク金

刑ノ言渡ニ對シテハ自ラ不當ナルヲ知ルモ尙ホ上告ヲ爲シ以テ判決ニ至ルマテ其納ム可キ金額ヲ流用ス而シテ上告ノ日ヨリ判決ノ日マテハ率子六十日ニ亘ル又其罰金若クハ追徵金ノ十分ノ一ハ年六割ノ利息ニ相當シ民間ニ在テ年六割ノ利息ヲ收ムルハ決シテ能フ所ニ非ス是レ十分ノ一ナル標準ノ由テ生スル所ニシテ要スルニ此ヲ以テ其金額ヲ流用スル方途ヲ塞クニ在リ又罰金ハ主刑ト附加刑トノ二者ヲ總稱スル者ト領會セヨ

○五十七番 村田 保

本案ノ旨趣ハ内閣委員ノ説明ニ因テ領會セリ輕輕ニ考察ヲ下セハ既ニ上告ノ方途ヲ開キ今又斯ル法律ヲ布クハ前後撞着スルニ似タルモ民事ノ上告ニハ十年二月發布ノ法律ヲ以テ金額ヲ豫納セシムル者ト定メタルニ刑事ノ上告ニ限リ之ヲ豫納セシ

メサルハ權衡ヲ失ス且内閣委員ノ陳ル如ク濫訴ノ惡弊ハ防止セサル可ラス而シテ本案ヲ措テ他ニ良方法アルヲ知ラス蓋シ上告ノ不當ナル爲メニ豫納金ヲ沒收スルハ實ハ穩當ナラサルモ已ムヲ得ス本案ヲ賛成ス因テ本官モ一二ノ質問ヲ爲サン夫レ追徴ハ單ニ金圓ノミニ限ラサルハ各官ノ熟知スル如シ而シテ本案ノ冒頭ニハ「罰金及追徴ノ言渡」ト言ヒ即チ物品ノ追徴ヲモ包含スル者ニ似タリ然ルニ後文ニ「追徴金ノ十分ノ一」ト言ヘルヲ觀レハ單ニ金圓ノミニ限ルニ似タリ然レハ則チ物品追徴ノ場合ハ何様ニ其納付ヲ遷延スルモ本案ハ一切ニ之ヲ問ハサル乎又上告趣意書ニ添ヘテ金圓ヲ納ムル者ト爲シタルハ或ハ本案ノ精神ニ合セサラン上告趣意書ハ上告申立書ヲ呈出セシヨリ五日內ニ於テ呈出シ而シテ上告申立書ハ上

告ヲ爲サントスルニ當リ五日內ニ爲ス可キノ成規ナレハ前後ヲ通算セハ十日內ト爲ルニ非スヤ故ニ寧ロ上告申立書ニ添ヘテ納ル者ト爲ス可キカ如シ本案ノ然セサルハ何ソヤ又十分ノ一ト言ヘルハ本官モ當初ヨリ之ヲ疑ヘリ何トナレハ控訴ニハ十圓民事上告ニモ十圓ヲ納メシムルニ本案ニ限り十分ノ一ト爲シタルハ彼此權衡ヲ失スレハナリ然レトモ此點ニ關シテハ既ニ内閣委員ノ説明ヲ得タルヲ以テ復タ贅セス

○周布一番公平 本案ノ追徴トハ單ニ金圓ノ追徴ノミヲ云ヒ物品ノ追徴ニ及ハス又說ノ如ク上告趣意書ニ添ヘテ納金セシムル者ト爲セハ上告申立書ニ添フルニ比スレハ五日間ヲ緩クスルニ至ルモ本案ノ然カセサルハ上告者ノ便利ヲ圖リテナリ他ニ深キ理由ノ存スル

ニ非ス

○議長 質疑大體論共ニ盡キタルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル第二讀會ノ期日ハ更ニ報告セン本日ハ散會セヨ

午前第十時十五分開場

元老院會議筆記 明治十九年六月三日

○第五百十二號議案 罰金及追徴ニ係ル上告豫納金ノ件 第二第三讀會

議長 大木 喬任

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 田中 芳男 |
| 五番 | 西村 貞陽 |
| 六番 | 海江田信義 |
| 八番 | 福原 實 |
| 九番 | 大久保一翁 |
| 十一番 | 伊丹 重賢 |
| 十四番 | 野村 素介 |

十五番	鍋島直彬
十七番	加藤弘之
十八番	柴原和
二十二番	壬生基修
二十三番	穴戸璣
二十五番	安藤則命
二十七番	原田一道
二十八番	調所廣丈
二十九番	三浦安
三十一番	神山郡廉
三十三番	中村弘毅

三十七番	西周
三十九番	神田孝平
四十番	長松幹
四十一番	小畑美稻
四十二番	榎村正直
四十四番	岡内重俊
四十六番	林友幸
四十七番	橋口兼三
四十八番	渡邊驥
四十九番	鍋島幹
五十一番	中村正直

- 五十四番 東久世通禧
- 五十五番 永山 盛輝
- 五十七番 村田 保
- 五十八番 津田 眞道
- 五十九番 由利 公正
- 六十番 河田 景與
- 六十二番 長谷部辰連
- 六十三番 何 禮之
- 六十四番 津田 出
- 六十七番 上杉 茂憲
- 六十八番 長岡 護美

- 六十九番 黒田 清綱
- 七十番 渡 正元
- 七十一番 楠本 正隆
- 七十三番 坂本 政均
- 内閣委員番外一番 法制局參事官周布 公平
- 同番外二番 法制局參事官平田 東助

午前第十一時四十分開場

○議長 本日ハ第五百十二號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金又ハ追徴金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書

記局ニ預置ク可シ否ヲサレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス若シ上告不當ナルトキハ大審院ニ於テ其全部又ハ幾分ヲ没入スルノ言渡ヲ爲ス可シ

○五十七番 村田保

本官ハ第一讀會ニ於テ沒收物品ハ本案ニ入ラサルヤヲ内閣委員ニ問ヒシニ本案ハ金圓ニ止ムト答へ而シテ本官モ本案ノ如クニシテ支障ヲ見スト思惟ス然ルニ治罪法第四百十五條ニ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シテ上告スルトキハ原裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ言フ思フニ菓子煙艸醬油酒造等ノ諸稅則ニ關シテ其犯則者ヨリ徵收スル者ハ特リ金圓ノミナラス物品罰金及ヒ追徵金ヲ併科スル有リ今夫レ物品ノ沒收ニ係ル事件ニ關シテ上告スルトキハ其物品ニ拘ラス罰金追徵金ノ徵收ヲ執行スルト爲セハ本案ハ有

効ナルモ若シ然ラスシテ總テ執行ヲ停止ストナラハ其間自在ニ罰金追徵金ヲ融通スルヲ得ルヲ以テ恐クハ濫訴ノ弊患ヲ防ク能ハサラン因テ本院書記生ヲシテ裁判所ニ照會セシメタルニ是レ固ヨリ第四百十五條ニ遵ヒ三件連帶スルヤ其一件ニ關スル上告ノ爲メニ他ノ二件ノ執行ヲモ停止ストノ辨明ヲ得タリ本案ニ於テハ物品ニ關シ上告スルトキ他ノ二件ハ之ヲ何如スルヤ

○番二 平田東助

罰金追徵金物品沒收ノ三件ヲ併科スル場合ニ當リ物品沒收ノ一件ヲ以テ上告スル爲メニ他ノ二件モ執行ヲ停止セハ本案ハ徒法ニ屬スト云フ五十七番ノ疑議ハ其理ナキニ非ス然レトモ上告ヲ許セル精神ヲ察スレハ人民ヲシテ冤枉ヲ受ケサラシムルニ在リ故ヲ以テ其上告ニ係ル事件ニ止ムルヲ可トス例ヘハ物品沒收

ノ一事ニ關シテ上告スト爲シニ其他ノ二件ハ執行スルモ何ノ支障
カ之レ有ラン獨逸ノ法律モ只其上告ニ係ル事件ノミ執行ヲ停止ス
本案ノ主旨モ亦然リ此ノ如クシテ敢テ治罪法ニ抵觸スル無シト信
ス

出席

三十番

伊集院兼寛

同

三十八番

田邊 太一

○五十七番村田保 内閣委員ハ一己ノ見解ヲ以テ答辨ヲ爲スモ裁判所
ノ實際ニ施行スル所ハ本案ト異ナリ故ニ道理ノ何如ニ關セス到底
事ニ支障スルヲ見シ普漏士國ノ法律ハ答辨ノ如ク上告ノ事件ニ止
ムルモ佛國ノ法律ハ上告セサル事件ト雖モ其連帶スル所ノ者ハ同
シク執行ヲ停止ス然ルモ尙ホ本案ノ如クニシテ支障ヲ見スト云フ

ヤ更ニ答辨ヲ煩ハス

○外二番平田東助 本案ノ精神ハ前ニ説明セシ所ノ如シ治罪法第四百十

五條ノ如キモ本員ハ亦然ク解釋スルナリ此解釋ニシテ事ニ支障ス
ト爲サハ文字ヲ修正スルモ可ナラン本員ハ五十七番ト意見ヲ異ニ
シ本案ノ如クシテ毫モ支障ヲ見スト思惟ス

○五十七番村田保 只今ノ答辨ヲ得テ本案ノ旨意ハ瞭解ス因テ治罪法
第四百十五條ノ「上告アリタル時ハ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言
渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス」ト言ヘルニ依リ本案ヲ修正シテ上告
ヲ爲サントスルトキハ其十分ノ一云云ト爲シ「罰金又ハ追徴金ノ」
八字ヲ削除セン本案ハ唯罰金及追徴金ト言フモ犯則ノ事情ニ應シ
テ物品ヲ沒收シ罰金追徴金ヲ科スル有シニ本案ノ如クナレハ十圓

ノ罰金ト一圓ノ賣上高トノ二者ニ係ラハ犯則者ハ一圓ノ十分ノ一ヲ豫納スルニ出ントス是レ「罰金又ハ追徴金」ト言ヘル「又」ノ字ニ弊ヲ存スレハナリ然ルニ法律ノ精神ハ然ラサルニ似タリ物品沒收ノ如キハ頻頻ニ之レ有ルニ非サレトモ民事刑事ノ控訴ニ於テモ物品ト金額トノ二者ヲ豫納スルヲ以テ本案モ之ニ從フヲ可トス又「上告趣意書」トハ上文ノ「上告ヲ爲サントスルトキハ」ト言ヘルニ照應セズ元來上告ヲ爲サントスルトキハ上告申立書ヲ呈出スルヲ以テ起初ト爲スニ因リ「上告ヲ爲サントスルトキハ」ト言ヘハ上告申立書ニ金額ヲ添ヘルヲ至當ナリトス蓋シ上告申立書ヲ呈出セサルコト無キニ非サルモ是レ本案ノ場合ト異ナリ故ニ「上告趣意書」ヲ改メテ上告申立書ト爲サン

○五十八番 津田眞道 賛成

○議長 五十七番ノ動議ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○五十一番 中村正直 本官ハ「罰金又ハ」ノ「又ハ」ヲ及ト改メント欲ス

○二十九番 三浦安 議長ニ問フ只今ノ動議ハ已ニ問題ニ上リシヤ

○議長 然リ

○二十九番 三浦安 更ニ内閣委員ニ質問ス「又ハ」トハ孰レカ其一ニ從

フノ精神ナリヤ或ハ罰金ト追徴金トノ二者ヲ指言スルヤ「又ハ」ト爲セハ或ル一件ノ輕キ者ノミニ傾向スル無キヲ得ス本官ハ其精神ノ在ル所ニ因テ可否ヲ決セントス

○外 周布公平 二十九番ノ質問ニ答ヘシ「罰金又ハ追徴金」トハ孰レカ其一ヲ科スルト二者ヲ併科スルトノ二義ヲ包含セシムル者ニシ

テ例之ハ罰金ナリ追徴金ナリ其一ヲ科スルトキハ十分ノ一ヲ豫納シ二者ヲ併科スルトキハ各其十分ノ一ヲ豫納セシムルノ精神ナリ併セテ辨ス五十七番ハ上告趣意書ヲ上告申立書ト改ム可シト云フモ是レ第一讀會ニ陳辨セシ如ク上告者ニ五日ノ餘裕ヲ與ヘテ便利ヲ得セシメントスル旨意ニ出テタルナリ

○二十九番

三浦安

番外ノ答辨ヲ得テ原案ノ精神ヲ領會ス然ルニ又ハト言ヘハ罰金追徴金ヲ併科スルニ當リ其一ヲ豫納セハ足ルヤノ疑ヒ有リ故ニ五十七番ノ動議ハ一理アリト雖モ本官ノ考フル所ヲ以テスレハ悉ク罰金追徴金ノ文字ヲ刪除スルヲ要セス只其「又ハ」ノ二字ヲ除ケハ可ナリ因テ現問題ニハ賛成ヲ表スル能ハス

○十八番

柴原和

本官モ内閣委員ノ説明ヲ聞キ二十九番ト同感ヲ生セ

リ五十一番ノ云ヘル如ク又ハ「ヲ」及ニ換フルモ可ナリ畢竟又ハ「ノ」文字ニ疵弊アルナレハ之ヲ刪除シテ足ル罰金追徴ノ文字ハ必要ナリトス又上告趣意書ト上告申立書ノ二者ニ關シ内閣委員ハ上告趣意書ト爲セシハ上告者ニ便利ヲ與フルナリト云フ其レ然ラシ然レトモ上文ニ爲サントスルトキハト言ヘルヲ以テ上告申立書ト爲ササレハ旨意分明ナラス且假令五日ノ餘裕ヲ存スルモ敢テ上告者ニ便利ヲ與フルニ足ラス明治十二年頒布控訴上告手續第二十八條ニ處刑ノ言渡ヨリ三日内ニ上告願狀ヲ呈出シ十日内ニ趣意明細書ヲ呈出ス可キヲ示セリ即チ本案ノ上告趣意書ハ十日内ニ呈出ス可キ者トス前キニ内閣委員ノ五日ノ餘裕ヲ與フト云ヘルハ何ソヤ或ハ爾後日限ヲ改正セシヤ要スルニ上告趣意書ヲ上告申立書ニ改ム

ルハ同意ナルモ前文ヲ削除スルニハ同意スル能ハス故ヲ以テ五十七番ノ動議ニハ左袒セサルナリ

○三十九番 神田孝平 現問題ニ關シ五十七番ニ質問ス「罰金又ハ追徴金」ノ七字ヲ削除シ而シテ沒收物品モ「十分ノ一」ナル文字中ニ包含セシムトナラハ其沒收物品ハ評價ヲ經テ十分ノ一ニ應當スル物品ヲ呈出セシムルヤ

○五十七番 村田保 「罰金」云云ヲ削除スルハ固ヨリ沒收物品モ其中ニ包含セシメ單ニ金圓ノミニ限ラサルヲ示スニ在リ物品ヲ沒收スルニ當リテ之レニ評價ヲ施スハ少シク煩勞ニ似タルモ烟艸釀酒及ヒ諸機械ノ如キ大概即時ニ其價直ヲ評定スルヲ得ヘク決シテ甚シキ煩勞ヲ致サス故ニ此七字ヲ削除シテ沒收物品ヲ包含セシメントス

ルナリ

○議長 五十七番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ五十七番ノ修正說ハ消滅ス

○二十九番 三浦安 五十七番ノ所說ハ一理アルモ本官ハ沒收物品ヲ加入セサルヲ善シトス畢竟本案ノ「又ハ」ノ文字ニ疵幣アルナレハ只之ヲ削ルニ止メテ可ナリ某議官ハ「又ハ」ニ換フルニ及ノ文字ヲ以テセント云フモ本官ハ之ヲシモ要セスト思惟ス因テ「又ハ」ノ二字ヲ削除スル修正說ヲ提出ス

○三十九番 神田孝平 賛成

○議長 二十九番ノ動議ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○五十七番村田保 本官ノ「罰金」云云ヲ削除シテ没收物品ヲ包含セシムル修正説ハ消滅シ而シテ單ニ又ハ一ノ文字ヲ削除スル修正説現ニ議場ノ問題ト爲リシモ本官ハ之レニ服セス何ソヤ其文義ヲ成ササルカ故ナリ上文ニ「上告ヲ爲サントスルトキハ」ト言ヘハ下文ニ「上告申立書」云云ヲ以テ相承ルヲ至當ト爲ス上告趣意書ト言ヘハ文義通セス故ニ現問題消滅セハ「又ハ」ヲ及ト改メ上告趣意書ヲ上告申立書ト爲ス修正説ヲ提出セントス

○十八番柴原和 「又ハ」ノ文字ハ瑕疵アレハ削除スルヲ可トス且之ニ換フルニ及ノ字ヲ以テスレハ意義更ニ明瞭ナル可シ上告趣意書ノ事ニ關シテハ内閣委員ノ答辨セル所アルモ凡ソ上告ヲ爲スニハ先ツ申立書ヲ呈出シ然ル後ニ趣意書ヲ呈出スルノ順序ナリ上文ニ「上

告ヲ爲サントスルトキハ」ト言ヘハ申立書ト云フヲ以テ之ヲ承ルヲ至當ト爲ス本官ハ「又ハ」ノ文字ヲ削除スルハ本問題ニ同意ナルモ上告趣意書ト爲スニハ服セス故ニ本問題ニ可決セハ第三讀會ニ於テ更ニ之ヲ修正スル意見ヲ提出セン因テ願フ從來ノ慣例ニ從ヒ本案ノ「又ハ」云云ト「上告趣意書」云云トヲ兩段ニ分チテ決ヲ取シコトヲ然セハ則チ本官ハ本問題ニ左袒セントス

○十一番伊丹重賢 「又ハ」ノ文字ヲ削除スルハ不可ナリ又「上告ヲ爲サントスルトキハ」ト言ヘハ急速ニ上告スルニ似テ趣意書トノ照應宜キヲ得ス某議官ハ改メテ申立書ト爲サント云フモ是亦不可ナリ申立書ヲ呈出スルハ容易ナルモ趣意書ハ然ラス即チ上告ノ趣意ヲ細述スル者ニシテ其上告ハ此ヲ以テ成立ス蓋シ申立書ハ立コロニ辨ス

ル者ナレハ此レト同時ニ豫納金ヲ供出セシメハ上告者ハ甚々困難
ヲ感セン故ニ原案ノ如ク趣意書ト爲シテ餘裕ヲ與フルニ如カス本
官ハ本案ヲ改メテ言渡ヲ受ケ上告ヲ爲サントスル者ハ云云ト爲シ
「タル者」トキ「又ハ」ノ數字ヲ刪除シ而シテ趣意書ハ本案ニ仍ラン
ト欲ス若シ現問題消滅セハ更ニ此修正說ヲ提出セン

○二十九番 三浦安 本官ノ修正ニ關シテハ反對豫陳說續發セリ本官ハ
強テ抗論スルニ非サルモ原案ノ如ク爲サントスルトキハ「ト言フ
モ遲速孰レニモ解シ得ヘケレハ必シモ反對豫陳說ノ如クスルヲ須
ヒス但其「又ハ」ノ二字ハ各官ノ共ニ非視スル所ニシテ原案ノ精神
ヲ暗晦ナラシムルヲ以テ是レ斷シテ刪除スルヲ要スルノミ

○議長 二十九番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ二十九番ノ修正說ハ消滅ス

○五十七番 村田保 豫陳セシ修正說ヲ提出セン即チ「又ハ」ヲ及ト改メ

「趣意書」ヲ申立書ト爲ス是ナリ十一番ハ趣意書ヲ呈出シテ始メテ
上告ノ成立スル如ク解釋セルニ似タルモ治罪法ニ據ルニ申立書ヲ
呈出スレハ既ニ已ニ其上告ハ成立スル者トス某議官ノ爲サントス
ル者ハト改メント云フモ果シテ然セハ治罪法第四百十六條ト同一
ニシテ趣意書ニハ承合セサルナリ因テ更ニ此動議ヲ提出ス是レ素
ト原案ヲシテ一層明白ナラシムルニ外ナラサレハ願クハ各位ノ賛
成ヲ與ヘンコトヲ

○五十一番 中村直 賛成

○議長 五十七番ノ修正ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○十八番 柴原和 本官モ賛成ス又ハ「ヲ及ト爲セハ本案ノ旨趣大ニ明

白ナルヲ致ス可シ思フニ上告ハ申立書ヲ呈出スレハ既ニ已ニ成立
スルナリ又若シ内閣委員ノ説明ニ從フトキハ單ニ上告趣意書ト言
ハスシテ上告趣意明細書ノ文字ヲ用井ルヲ要ス蓋シ單ニ上告趣意
書ト言ヘハ或ハ上告申立書トモ解釋スルヲ得レハナリ且夫レ一タ
ヒ上告申立書ヲ呈出セハ其上告ハ既ニ認許セラレタル者ニシテ趣
意明細書ヲ呈出スルニ十日ノ餘裕ヲ與フルハ書類調査等ノ日數ヲ
要スルニ由ル故ニ十分一ノ金額ハ上告ノ成立スル時際ニ豫納セシ
ムルヲ要ス元來本人ノ裁判言渡ニ承服セスシテ上告ヲ爲スナレハ
十分一ノ豫納金ヲ爲スニ於テ何ノ困難カ之レ有ラン此等ノ理由ナ

ルヲ以テ本案ハ上告申立書ト爲シ以テ上文ト照合セシムルヲ可ト
ス故ニ喜テ現問題ヲ賛成ス

○二十九番 三浦安 本官モ五十七番ヲ賛成ス又ハ「ヲ及ト改ムルハ尤

モ善シ本官ノ前キニ提出セシ修正ハ全ク「又ハ」ヲ削除スルニ在リ
テ其歸着スル所ハ此文字ヲ嫌フニ外ナラス故ニ及ト改ムル修正ニ
モ賛成ヲ表ス

○四十九番 鍋島幹 現問題ノ修正ニハ未タ同意スル能ハス「又ハ」ノ文

字ヲ不妥ナリト爲スハ各官ト同感ナルモ趣意書ヲ申立書ト改ムル
ハ失當ナリ本案ノ如ク豫納金ヲ趣意書ニ添フト爲スハ上告者ニ便
利ナリトス夫レ豫納金ヲ申立書ニ添ヘシムルハ嚴ニシテ趣意書ニ
添ヘシムルハ寬ナリ寬嚴孰レカ宜キヤト云ヘハ其寬ナルヲ宜シト

ス元來本案ノ主意ハ濫訴ヲ防クニ在リ而シテ濫訴ヲ防クハ罰金追徴金ノ十分ノ一ヲ預リ置クヲ以テ既ニ已ニ十分ナリ然レハ則チ其納金ハ少シク餘裕ヲ與フルモ何ノ不可カ之レ有ラン現問題ノ如クナレハ上告者ヲシテ本案ノ主意ノ外ナル困難ヲ受ケシムルニ至ラシ故ニ行文ノ何如ニ關セス原案ニ從フテ趣意書ト爲シ以テ善良ナル上告者ニ寛貸スルヲ要ス

○十八番柴原和

本官ハ甚タ「又ハ」ノ文字ヲ嫌フ故ニ必ス此ヲ削除スルヲ要スルモ他ハ熱心ニ主張スルニ非ス然レトモ上告ハ三日内ニ申立書ヲ呈出スル例規ナルヲ以テ趣意書ヲ呈出スル以前ニ既ニ其上告ハ成立スルナリ故ニ此ニ趣意書ト爲シ而シテ後文ニ於テ更ニ「上告ヲ爲スコトヲ得スト言ヘルハ不妥ナリ宜ク上告ヲ取消ス可シ

ト改ムヘキナリ本官ノ旨意ハ必シモ趣意書ト爲ササルモ申立書ヲ呈出スル三日間ニハ十分一ノ豫納金ヲ調達スルヲ得ヘシ思フニ控訴ノ場合ニ於テ十圓ヲ豫納セシムルモ亦之ヲ申立書ニ添ヘシムルノ例規ナレハ本案モ之ニ倣フヲ要ス

○一番周布公平

頻頻ニ修正說出タレトモ其特ニ重要ナルハ某議官ノ陳ル如ク上告趣意書ニ添ヘテ金圓ヲ預ケ置クト上告申立書ニ添ヘテ預ケ置クトノ二點ニ止マル何トナレハ其論決ノ如何ニ因テ上告者ノ便利ヲ感スルト否ラサルトノ差異ヲ生スレハナリ原來上告期限ハ僅僅ノ日數ナルヲ以テ先ツ申立書ヲ呈出シ若干日ヲ經テ趣意書ヲ呈出スル者トス即チ上告ハ申立書ヲ呈出セシトキニ成立スルモ未タ趣意書ヲ呈出セサルノ間ハ上告ノ趣意ヲ知ル能ハス故ニ上

告ハ趣意書ヲ呈出シテ始メテ完全ナル者ト爲ルナリ說ノ如ク狹隘ノ意義ヲ以テ本案ヲ解釋セハ「上告ヲ爲サントスルトキ」ト言ヒ「上告趣意書ニ添ヘ」ト言フハ穩當ヲ闕クニ似タルモ某議官ノ云ヘル如ク廣汎ノ意義ヲ以テ解釋セハ其然ラサルヲ知シ治罪法第四百十六條第四百十七條ヲ觀ルモ亦以テ實際ニ障礙ヲ見サルヲ信ス然ルモ若シ尙ホ望慮スルナレハ寧ロ「爲サントスルトキ」ノ文辭ヲ爲ストキ又ハ爲シタルトキニ換フ可シ斯ル修正ナレハ本員等ハ敢テ異議ヲ存セサルモ趣意書ヲ申立書ニ換フルニ至テハ異議ヲ存スル無キ能ハス「上告ヲ爲スコトヲ得ス」ノ文辭モ前陳ノ如ク上告ハ趣意書ヲ呈出シテ始メテ完全ナル者ト爲リ然ラサレハ申立書モ自然ニ消滅ニ歸スルト看ハ是亦支障ヲ見サラン本來斯ル法律ヲ設ルハ

内閣委員タル本員等ニ在テモ素ト屑シトセサルナリ然ルニ奈何セシ前會ニ陳ル如キ不良ナル上告者ノ多キヲ以テ已ムヲ得ス之ヲ設クルモ善良ナル上告者ヲ保護スル方途ハ務メテ之ヲ啓カサル可ラス十八番ハ上告趣意書云云ノ文辭ヲ用ヒタルハ内閣ニ在テ別ニ深ク考案ヲ下セルニ非サル可シト云フモ實ニ前陳ノ理由ノ在ル有リ必シモ考案ヲ下セル無キニ非ス又上告趣意書ヲ上告趣意明細書ト改メサレハ當ラスト云フモ此文字ハ治罪法第四百十七條ニ據リタルナレハ是亦支障ヲ見サルヲ信スルナリ

○五十七番

保村田

只今内閣委員ノ下セル上告趣意書ナル文字ノ説明

ハ前日ノ説明ト異ナルヲ覺フ前日ハ別ニ深キ理由ヲ存セスト云ヒ本日ハ之レニ反セリ思フニ本日ノ説明ハ僞ニシテ前日ノ説明ハ眞

ナラン内閣委員モ既ニ「爲サントスルトキ」ノ文字ハ修正ヲ加フル
 モ可ナリト明言セリ其レ然リ爲シタルトキ又ハ爲シタル後ノ文字
 ニ換ヘサレハ上告趣意書ノ文辭ニ承合セス若シ深キ理由アリテ上
 告趣意書ノ文辭ヲ後ニ用ヒタルナレハ前ニ「爲サントスルトキ」ト
 言ヘル如キ文字ヲ用フ可キニ非ス此一點ヨリ考察スルモ深キ理由
 ナキヲ推知スルニ足ル然レトモ本官ハ強ヒテ上告趣意書ヲ上告申
 立書ト修改ス可シト云フニ非ス惟タ前後不整ノ文辭ヲ用フルヲ嫌
 フノミ某議官ハ上告申立書ト爲セハ上告者ニ對シテ苛酷ニ出ル如
 ク論難スルモ民事ノ上告ナリ刑事ノ控訴ナリ皆直チニ金圓ヲ豫納
 セシムルニ非スヤ若シ寬嚴ヲ論スルナレハ宜ク刑事ノ控訴ニ關シ
 テ之ヲ論スヘキノミ畢竟上告ハ本人ノ意望ニ出ツ官府ヨリ之ヲ強

ルニ非ス例ヘハ猶ホ賣買ノコトシ故ニ此點ニ關シテ苛酷云云ノ説
 ヲ爲スハ蓋シ失當ナラン幸ニ現問題ニ可決スルヲ望ム

○外一番周布
公平

五十七番ハ本員ノ説ヲ指シテ前日ト齟齬スト云ヘリ
 思フニ本員ノ言辭ノ周到セサリシニ由ル可キモ本員ハ前會ニ於テ
 本案ノ上告趣意書云云ハ上告者ノ便利ヲ謀ルニ出テ其他別ニ深キ
 理由ノ存スルニ非スト説キタルヲ確信ス

○四十二番棋村
正直

本案ノ上告趣意書ト言ヘルハ上告者ノ便利ヲ謀ル
 ニ出ルトハ本官モ内閣委員ノ前會ニ明言セルコトヲ記憶ス實ニ上
 告趣意書ニ添ヘテ金圓ヲ豫納セシムルハ上告者ニ便利ナリ然ルヲ
 現問題ノ如ク上告申立書ニ添ヘテ豫納セシメハ上告者ハ必ス困難
 ヲ感セン因テ本官ハ現問題ヲ賛成セス

○十八番柴原和 控訴上告手續第二十八條三刑ノ言渡シヲ受ケタル者上告ヲ爲サント欲スル時ハ其言渡ヨリ第三日迄ニ云云上告願書ヲ其裁判所ニ捧ケ又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ捧クヘシト言ヒ而シテ明治十八年第二號布告ニ曰ク自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得但治罪法中此規則ニ抵觸スル條件ハ當分ノ内施行セスト又其第二條ニ「控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サステ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得」ト言ヘハ本官ハ上告趣意書ヲ呈出スル期限ハ十日間ナリト覺フ然ルニ内閣委員等ハ五日間ト云フ孰レカ真正ナルヤ敢テ内閣委員ノ答辨ヲ煩ハサン

○番一周布外公平 十八番ノ質問ハ少シテ領會シ得サル有リ今一回陳辨スルヲ請フ

○十八番柴原和 本官ノ携帶セル控訴上告手續第二十八條ニハ「上告ヲ爲サント欲スル時ハ其言渡ヨリ第三日迄ニ云云又第十日迄ニ上告趣意明細書ヲ捧クヘシ」ト言ヒ又十八年第二號布告第二條ニ「控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サステ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得」ト言ヒ而シテ其布告文ニ「但治罪法中此規則ニ抵觸スル條件ハ當分ノ内施行セスト」言ヘハ上告趣意書ヲ呈出スル期限ハ十日間ナル可シ然ルニ内閣委員等ハ認メテ五日間ト做スニ似タリ夫レ五日間ト十日間トハ大ニ寬嚴ヲ異ニス故ニ其果シテ十日間ナルヤ否ヤヲ問フナリ

○番一周布外公平 本員ハ此ニ控訴上告手續ヲ携帶セス十八番ノ携帶セル書冊中二十日ト記シタル者蓋シ正確ナラン本員ノ上告趣意書ヲ

呈出スル期限ヲ五日ト認ムルハ治罪法ニ據ルナリ

○議長 五十七番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ五十七番ノ修正説ハ消滅ス

○十一番 伊丹重賢 五十七番ノ動議ノ消滅ニ歸シタルヲ以テ本官ノ豫陳

セル修正説ヲ提出セン即チ「罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケ」ノ下ナル「タル者」ノ三字ヲ削リ「上告ヲ爲サントスルトキ」ヲ上告ヲ爲シタル者ハ其罰金追徴金云云ト改ムルナリ但此修正ハ素ト本官ノ發明セルニ非ス各官ノ修正説皆已ニ消滅シタルヲ以テ諸説ヲ擇集シテ一説ト爲シタルノミ五十七番ハ上告趣意書ヲ上告申立書ニ改メサル可ラスト論セルモ「上告ヲ爲サントスルトキ」ト言ヘル文辭ニ疵病ア

リトハ初ヨリ聞ク所ニシテ上告趣意書ヲ上告申立書ニ改メサレハ納金ノ緩慢ニ流ルトハ未タ他ニ聞カサル所トス故ニ本官ハ前陳ノ如ク修正セント欲スルナリ且ヤ五十七番ハ十一番ノ豫陳セル修正説ノ如ク「ハ治罪法第四百十六條ノ字例ニ據テ申立書ニ作ル可シト云ヘルモ本案ノ如ク爲サントスルトキ」ト言ヘハ其回其時ト云フ如キノ嫌ヒ有リ故ニ此駁撃ハ或ハ當ルモ本官ノ修正ノ如ク爲サントスル者ト言ヘハ斯ル嫌ヒ無シ故ニ此説ノ失當ナラサルヲ信ス又十八番ハ上告申立書ヲ呈出スレハ上告ハ即チ成立スルヲ以テ前ニ上告趣意書云云ノ文辭ヲ用フルトキハ後ノ「上告ヲ爲スコトヲ得ス」ノ文辭ハ修改セサル可ラスト云フモ申立書ヲ呈出スルハ上告手續ノ一端ノミ故ニ趣意書ヲ呈出スルニ非サレハ上告ハ未タ成立セ

リトハ謂フ可ラス但タ爲サントスルトキ一ノ文辭ハ上告趣意書ト
 言ヘルト照應セス是レトキノ文字ヲ者ト改ムルヲ善シトスル所以
 ナリ又若シ「罰金又ハ追徴金」云云ト言ハ各官ノ陳ル如キノ嫌ヒ
 有リ故ニ罰金追徴金ト連接スルヲ得タリトス又上告趣意書ヲ呈出
 スル期限ハ本官モ治罪法第四百十六條ノ明文ニ從ヒ五日間ナリト
 思考ス抑モ民事上告等ニハ豫納金ノ一定セルヲ以テ上告者ヲシテ
 直チニ納金セシムルモ支障ヲ見サレトモ本案ハ惟タ十分ノ一ト言
 ヘルノミニシテ其納金額ノ幾許ニ上ホルヤヲ知ラサレハ上告趣意
 書ニ添ヘシムルヲ善シトス第一讀會ニモ陳ル如ク控訴上告ノ方途
 ヲ啓クハ冤枉者ナカラシムル爲メナレハ此ニ制限ヲ加フル如キ法
 律ハ固ヨリ其設ケ無キヲ欲スルモ奈何セン彼レ法律ヲ弄スト云ン

歟將タ彼レ法律ヲ規避スト云ン歟近時弊害ノ續起セルヲ以テ政府
 モ涕ヲ垂レテ斯ル法律ヲ設ルニ在ルナル可シ且ヤ刑事上告ニハ今
 日マテ絲毫モ豫納金ヲ要セサルニ今此法律ヲ設ルニ在レハ納金ノ
 期日ハ一日ナリトモ之ヲ緩ウシ以テ上告者ニ便利ヲ與フルヲ望ム
 尙ホ一回修正文ヲ陳レハ罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケ上告ヲ爲ス者ハ
 其罰金追徴金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添ヘ云云是レ
 ナリ

○十五番 鍋島直彬 賛成

○議長 十一番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五十七番 村田保 十一番ハ言渡ヲ受ケ上告ヲ爲サントスル者ト云ヒ

又更ニ言渡ヲ受ケ上告ヲ爲ス者ト云ヘル如シ孰レカ真正ナリヤ

○十一番 伊丹重賢 上告ヲ爲サントスル者ト修正スルナリ

○五十七番 保村田 爲サントスル者ト云ヘハ上告申立書ヲ呈出セス直

チニ上告趣意書ヲ呈出スル如キノ嫌ヒ有リテ前後照應ヲ闕ク若シ爲シタルトキ云云ト修正セハ發議者ノ旨趣貫徹シテ前後ノ文辭モ照應ス可シ因テ現問題ニハ同意セス

○十五番 鍋島直彬 本官ハ十一番ノ修正文ヲ上告ヲ爲ス者ト聽取セルヲ以テ賛成セリ然ルニ爲サントスル者トハ未來ノ文辭ナルカ故ニ五十七番ノ陳ル如キノ嫌ヒヲ生ス因テ發議者ノ之ヲ變更スルヲ望ム然ラサレハ本官ハ已ムヲ得ス賛成ヲ收消セントス

○十一番 伊丹重賢 本官ハ「トキ」ノ文字ハ即刻ト云フニ似タルノ嫌ヒ有ルヲ以テ主トシテ之ヲ削除スルニ注目シ即チ爲サントスル者ト云

ヒシモ十五番ハ此ヲ改更セサレハ賛成ヲ收消スト云ヘリ是レ頗ル遺憾ナルヲ以テ更ニ上告ヲ爲ス者云云ト改更セン

○十五番 鍋島直彬 然レハ則チ本官ハ十一番ノ修正ヲ賛成ス

○三十八番 田邊太一 十一番ニ問フ本官ハ前キニ起立ヲ以テ五十七番ノ動議ニ賛成ヲ表セリ是レ「又」ノ文字ヲ嫌フト上告趣意書ヲ承ケテ上告ヲ爲スコトヲ得スト言ヒ其前後ノ齊整ナラサルヲ嫌フトニ由ル然ルニ十一番ノ動議ハ未タ少シク穩安ナラサルヲ覺フ若シ本官ノ所考ヲ以テセハ前段ハ只今ノ修正文ノ如クシ而シテ後段ハ否ラサレハ其効ナシト修正スルヲ優レリトス故ニ十一番ニシテ然ク其說ヲ改メハ本官之ヲ賛成セントス

○十一番 伊丹重賢 本官ハ前陳ノ修正說ニシテ足レリト思考ス若シ三十

八番ニシテ之ヲ非視セハ宜ク更ニ動議ヲ發スヘシ要スルニ本官ハ務メテ原案ノ文字ヲ換ヘサルヲ欲スルナリ

○五十七番村田保 爲ス者云云ノ辭例ハ近來ノ法律ニ之レ有ルヲ見ス故ニ瑣末ナル差異ナレトモ爲シタルトキト言フニ非サレハ賛成スル能ハス

○四十九番鍋島幹 本官ハ前言ヲ履ミテ十一番ノ動議ヲ賛成ス爲ス者ト言フ何等ノ支障アルヲ知ラス畢竟現問題ハ「又ハ」ノ文字ト「トキ」ノ文字トヲ除キタレハ各官ノ罣慮スル點ハ既ニ已ニ消釋シタリト考フ

○三十九番神田孝平 現問題ヲ賛成ス五十七番ハ爲シタルトキト言ハサレハ不可ナリト云フモ爲シタルトハ爲シ了リタルト云フノ意義ナ

リ然ルニ上告申立書ヲ呈出スルモ未タ上告趣意書ヲ呈出セサルノ間ニ在テハ其上告ハ豫言タルニ過キス而シテ本案ハ上告ヲ爲サントスル場合ヲ謂ヒ爲シ了リタル場合ヲ謂フニ非サレハ却テ現問題ノ如ク現在ノ文辭ヲ用フルヲ穩當ナリトス

○五十七番村田保 反對論者ハ爲シタルトキトハ爲シ了リタルトキト云フノ意義ナリ本案ハ上告ノ申立ヲ爲シタル場合ヲ謂フニ在レハ却テ現問題ヲ優レリトスト主持スルモ後段ニ上告趣意書ニ添ヘノ文辭アレハ前段ニ爲シタルトキト言フモ上告申立ヲ爲シタルトキト解スルノ外ナシ之ニ反シテ現問題ノ如ク爲ス者ト言ヘハ啻ニ法文ノ曖昧ニ歸スルノミナラス近來ノ辭例ニ違フ因テ現問題ニハ同意スル能ハス

○二十九番 三浦安

頻頻ニ修正說出タレトモ皆消滅シ或ハ本案ニ決セントスルノ勢ヒ有リ畢竟各位ノ認メテ疵病アリト做スハ「又ハ」ノ文字ニ在リ爲シタルトキ及ヒ其他ノ文辭ニ係ル論說ハ綿密ナル解釋ヲ下スニ過キス而シテ現問題ノ如クスルモ惟タ多數ノ文字ヲ改ルノミ要旨ハ「又ハ」ノ二字ヲ削除スルニ止マル要スルニ斯ク議場ノ混雜スル以上ハ寧ロ當初ノ意見ニ從フテ此二字ノミヲ修改スルヲ可トス因テ本官ハ現問題ノ消滅スルヲ俟テ「又ハ」ヲ及ニ換フル修正說ヲ提出セントス故ニ現問題ニ同意セス

○四十二番 榎村正直

上告ヲ爲ス者ト改ムルモ修正ノ効功ヲ見ス因テ本官ハ寧ロ二十九番ノ修正說ノ出ルヲ俟テ之ヲ賛成セントス

○三十九番 神田孝平

本官ハ現問題ヲ賛成セル一人ナルヲ以テ尙ホ一言

セン五十七番ハ爲シタルトキト言フヲ近來ノ法律ノ文例ナリト云フモ是レ其文辭ヲ用フルノ必要ナル場合アルニ由ル而シテ本案ノ場合ハ然ラス故ニ之ニ倣フ能ハス本官ハ前キニ二十九番ノ「又ハ」ノ文字ヲ削除スル動議ヲ賛成セシニ行ハレス今又之ヲ及ニ換フル修正說ノ豫陳ヲ聞クモ彼此ヲ比照セハ寧ロ前說ノ優レルヲ見ル何トナレハ豫陳說ノ如ク僅僅一行中ニ「罰金及追徴」ノ文字ヲ複用セハ單ニ罰金若クハ追徴ノ言渡ニ係ル場合ニ適用ス可ラサル如キノ嫌ヒ有レハナリ故ニ此點ヨリ觀察スルモ現問題ヲ善シトス

○議長 發議已ニ監キタルヲ以テ決ヲ取ン十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ修正説ハ消滅ス

○二十九番 三浦安 豫陳ノ修正説ヲ提出ス「又ハ」ノ文字ヲ削除スルニ

止メハ一層ニ妥當ナレトモ個ハ既ニ消滅セルヲ以テ今只「又ハ」ヲ及ニ換ントス幸ニ賛成ヲ請フ

○十八番 柴原和 本官ハ上告趣意書ノ文字モ修正ヲ加フルヲ望ミタレ

トモ其説ノ行ハレサリシ以上ハ二十九番ノ動議ヲ賛成ス否ヲサレハ現問題モ消滅シ若シ本案ニ據テ決ヲ取レハ本案モ亦消滅ニ歸スル無キヲ保タサレハナリ某議官ハ又ハノ文字ヲ削除スルヲ最モ善シトス及ニ換フルハ之ニ亞クト云フモ本官ハ之ニ反シテ及ニ換フルヲ最モ善シトス又本官ハ内閣委員等ノ上告趣意書ヲ呈出スル期限ヲ五日間ト做セルヲ以テ疑ヒヲ懷キシニ治罪法ニ據テ然ク論シ

タリト云フ然ルニ控訴上告手續ニ十日間ト言ヘル有レハ上告者ハ

一層ニ便利ヲ感ス可シ二十九番ノ修正説ノ行ハルルヲ望ム

○議長 二十九番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五十一番 中村正直 現問題ヲ賛成ス又ハノ文字ヲ存スルノ支障アレハ

ナリ

○四十七番 橋口兼三 現問題ヲ賛成

○十一番 伊丹重賢 賛成ス發議者モ云ヘル如ク此ニモ同意セサレハ遂ニ

原案ニ決スルヲ恐ル又ハノ文字ヲ削除スル修正ニ止ムレハ一層ニ妥當ナレトモ前キ既ニ消滅ニ歸シタルヲ以テ已ムヲ得ス現問題ニ可決スルヲ望ム

○議長 二十九番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十一人

○議長 多數ナルヲ以テ二十九番ノ修正説ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○外番一周番公平 最初ヨリ各官ノ最モ非視セル「又ハ」ノ文字ハ遂ニ削

除ニ決シ原案ノ精神益ス明瞭ヲ加ヘリ因テ迅ク本案ヲ發布シ濫ニ上告ヲ爲ス弊患ヲ防止スルヲ望ミ乃チ直チニ第三讀會ヲ開クヲ請

求ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金
又^及追徴金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書
記局ニ預置ク可シ否ヲサレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス若シ上告不當
ナルトキハ大審院ニ於テ其全部又ハ幾分ヲ没入スルノ言渡ヲ爲ス
可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ハ可決ト認メ第三讀會ヲ畢ル例ニ沿ヒ
修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午前第十一時五十五分閉場

元老院會議筆記 明治十九年六月十一日

禁傍聽

此日午前第九時第五百十六號議案海軍公債證書條例第一讀會ヲ開ントス因テ内閣總理大臣伯爵伊藤博文大藏大臣伯爵松方正義本院ニ臨ミ各議官ニ對シテ海軍公債ヲ發行スル要領ヲ説明セリ其説明タル本案制定ノ理由ヲ述ル者ナルヲ以テ參照ノ爲メニ此ニ載録ス

總理大臣曰ク本日ハ海軍公債證書條例案ノ會議ヲ開クト聞ク因テ之ニ先タチ此公債ヲ發行スル理由ヲ概說セン抑モ從前未タ此種ノ公債ヲ發行セルコト有ラサリシニヨリ恐クハ各議官ハ何ノ故ニ斯ク海軍ノ爲メニ公債ヲ募集スルヤヲ疑フナル可シ嘗テ内閣ハ明治十六年ニ於テ海軍造艦費ヲ貳千六百六拾四萬圓ト定メ二十二年度マテニ割合支出ス可キヲ約セシモ十九年度ノ豫算ヲ議

決スルニ方リ此海軍擴張ノ費額ニ供ス可キ歳入ヲ得ル能ハサルノ困難ヲ來セリ是レ此公債ノ發行ヲ要スル所以ナリ今略ホ十九年度ノ歳計ヲ述ニ該年度ハ政府ノ費用大ニ増加シ各省ヨリ要求スル經費額ハ九千九百拾六萬圓餘ニ上リ之ヲ十七年度ニ比スレハ壹千三百四拾餘萬圓ヲ増セリ十八年度ハ九箇月間ノ計算ナルヲ以テ彼此比較スル能ハサルモ十九年度ノ歳入ハ八千四百六拾九萬圓ニシテ幾ント壹千四百萬圓許ノ不足ヲ生セリ因テ何等ノ計度ヲ以テ此不足ヲ補填ス可キヤラ憂慮シ各省大臣ニ協議シテ痛ク内閣及各省ノ經費ヲ節減シ遂ニ出入相當ルヲ得セシメリ顧ルニ十五年以來軍費ハ年年ニ増加シタルモ十九年度ハ壹千四百萬圓ヲ要セサルヲ得ス是レ軍兵ヲ増加シ海岸ノ防禦ニ充ルカ

爲メナリ然ルニ今日ノ景況タル歳入ノ増加ハ到底望ム可ラス彼ノ酒造税ノ如キ大ニ減少ヲ致シ其他豫期スル税額ノ如キモ意外ニ減少ヲ致セルニ因リ陸軍費額ヲ壹千貳百萬圓ニ止メタリ但シ其兵數ヲ増シ銃砲ヲ鑄造スル等ハ此ヲ以テ充分ナリトス又海軍ニハ豫定ノ如ク客年マテ三年間造艦費ヲ支給スル通計九百九拾萬三千四百九拾壹圓餘ニ達セシモ尙ホ壹千六百七拾三萬六千五百八圓餘ノ殘額ハ十九年度以降ニ支給セサル可ラス然ルニ前述ノ如ク既ニ各省ノ經費ヲ節減セシモ尙ホ其金額ヲ以テ之ヲ支辨スルニ足ラス故ニ此年年三百萬圓許ナル造艦費ノ支給ヲ廢センカト議シタルモ現今ノ海軍ヲ以テシテハ一國ノ防禦スラ猶ホ能ハサルヲ以テ其殘額ノ造艦費ハ必ス二十三年マテニ交付スルニ

決セリ是レ今者海軍公債ヲ募集セントシ此案ヲ本院ノ議ニ付セシ所以ナリ各議官請フ此旨ヲ領セヨ尙ホ本案中ニ解セサル有レハ其質問ニ答ヘン

議官柴原和日ク只今ノ辨明ヲ得テ十分ニ領會シタレハ本案ヲ賛成ス幸ニ大藏大臣ノ臨席ニ會フヲ以テ本文中ノ緊要ナル一點ヲ質問ス現今ハ公債證書ノ民間ニ信用ヲ得タルト金融ノ梗塞セルヨリシテ諸公債證書ノ時價非常ニ騰貴シタレハ本案ヲ發スルヤ申込人ハ必ス多數ナラン先年起業公債ヲ發行スルニ當リ本官ハ職ヲ地方ニ奉セリ當時内務卿ハ其募集ニ應スル者ノ寡少ナランヲ憂ヒラレ本官等主トシテ申込人ヲ募リシニ申込人ノ員數ハ意外ニ多クシテ爲メニ證書ノ渡高ヲ減シ中山道鐵道公債ヲ發行スル

ニ當テモ申込人ノ多數ナルヨリ渡高ヲ減シタルヲ看レハ本案ノ第六條ハ尤モ注意セサル可ラス先年應募者ノ寡少ナルヲ憂ヒシ時ト雖モ尙ホ意外ニ申込金高ノ多額ニ至リシヲ以テセハ今ヤ全國金融梗塞セル時ナルカ故其申込金高ハ必ス多額ニ上ホル可シ今日資本家ハ其資本ヲ貸付スレハ薄利ナリ又其資本ヲ商業ニ運用スレハ多クハ損失ヲ招ク是ヲ以テ寧ロ公債證書ヲ購買シテ其利子ヲ得ルヲ得策ト爲シ相争フテ之ヲ購買シ遂ニ現今ノ如キ高價ヲ致スニ至レリ故ニ大藏大臣ノ意見ヲ以テ募集額ヲ全國平等ニ配分スルヲ善シトス然ラサレハ富豪者ハ一二人ニシテ全額ヲ買收シ他人ハ引受ルヲ得ル能ハサラントス引受高ノ多キ者ヨリ證書ヲ交付セハ小額ノ申込人ハ到底證書ヲ得ル能ハサルノ失望

ヲ生セン

大藏大臣曰ク本案第六條ノ「高キモノヨリ順次證書ヲ交付ス」ト有ルヲ申込金額ノ高キト解スルカ申込價格ノ高キト解セルヤ
議官柴原和曰ク需求額ノ高キ者ト解セリ

大藏大臣曰ク本案ハ申込價格ノ高キヲ言フナリ
議官柴原和曰ク領會ス然ルニ第九條ニ依レハ第六條ハ殆ント無用ノ者ニ似タリ

大藏大臣曰ク第五條ニ大藏大臣之ヲ定ムト言ヒ而シテ第六條ノ「高キモノ」トハ例ヘハ百一圓又ハ百二圓ノ價格ヲ以テ申込ヲ爲スノ場合ヲ謂フナリ本案ハ中山道鐵道公債證書條例ニ比スレハ文章較ヤ圓滑ナリトス

議官柴原和曰ク申込價格ノ高キ者ヨリ證書ヲ交付ストナレハ聖念セス

議官山口尙芳曰ク本案ハ一點ノ瑕瑾ヲ見ス只今ノ大藏大臣ノ辨明ニ因テ第六條ノ精神モ領會セリ思フニ申込價格ノ高キ者ヨリ證書ヲ交付スト爲セハ若シ兩人同一價格ヲ以テ申込ムトキハ抽籤ヲ以テ交付スルカ或ハ申込ノ前後ニ從フテ交付スルカ前後ニ從フトナラハ遠地ニ住スル者ハ多クハ近地ノ者ニ後レン其處置ハ何如シ

大藏大臣曰ク拾萬圓ノ引受ヲ申込ム者五人アレハ各已ニ五萬圓ヲ減ス申込ノ前後等ハ問ハサルナリ五拾萬圓ノ申込高ニ對シテニ拾五萬圓ヲ減スレハ五人平均ニ減スルナリ決シテ不公平ヲ生セ

議官村田保曰ク第六條ハ申込金額ノ多キヲ言フニ非ス即チ申込價格ノ高キヲ言ヘルハ既ニ領會セリ顧フニ我邦愛國者ノ實ニ多キ誰カ海軍ヲ擴張シテ外侮ヲ禦クヲ欲セサラン然レハ則チ此案ニ對シテハ各議官共ニ賛成スル所ナラン抑モ本案ハ第九條ニ明示スル如ク此條例ニ舉ルノ外ナル諸事ハ總テ中山道鐵道公債證書條例ニ據ル者ニシテ其殊異ナル所ハ償却ノ年期ト利子ノ割合トニ過キス故ニ本條ハ別ニ修正ヲ要スル無キモ條例ノ存在スル間ハ之ヲ施行セサル可ラス然ルニ中山道鐵道公債ハ十六年ニ發行シ五箇年据置其翌年ヨリ二十五箇年間ニ償還スル者ニシテ償還ノ後ハ其條例全ク消滅ニ歸ス然ルニ本案ハ五箇年据置三十年間

存在スルヲ以テ明治六十三年ニ至リ始メテ消滅スルナレハ本案ノ存在スル間ニ於テ中山道鐵道公債證書條例ハ已ニ消滅スルナルニ其已ニ消滅セシ規則ニ據ル可シト言フハ事理通セサルニ似テ人民ノ怪訝ヲ招クヲ恐ル現今ハ中山道鐵道公債證書條例ニ據ルトスルモ其消滅ノ後ハ何如スルヤ

總理大臣曰ク法律ノ解釋ハ各位ノ意見ニ任カス文字ノ不妥ナルハ之ヲ改修スルモ可ナリ第九條ニ中山道鐵道公債證書條例ニ據ルト言ヘハ政府ハ此ニ據テ施行スルコトヲ約束スルナリ然レハ海軍公債證書條例ノ存在スル間ハ決シテ其約束ヲ棄テス必シモ中山道鐵道公債證書條例ヲ引キテ此案ヲ論難スルヲ須非サルナリ議官箕作麟祥曰ク第四條ノ發行價格ハ凡ソ幾若干ナルヤ

大藏大臣曰ク三年間ニ募集スルナレハ今日ニ之ヲ一定スル能ハス
或ハ市場ノ景況ニ因テ高低スル有ラン是レ大藏大臣ノ擔任スル
所ナリ其市場ノ景況ノ如キハ各位ノ知悉スル所ニシテ蓋シ本官
ノ暗ニ藏スル意見ト同一ナル可シ

議官渡邊清曰ク十九年度歳計ノ差引不足ハ壹千三百萬圓ナリト云
フニ本案ニ於テ壹千七百萬圓ヲ募集セントス是レ四百萬圓ヲ多
クスルニ似タリ知ラス何如ナル理由ニ出ルヤ

總理大臣曰ク前ニハ十九年度ニ係ル歳計ノ不足ヲ言ヒシナリ豫約
造艦費貳千六百六拾四萬圓ノ計内已ニ九百九拾萬圓ヲ支給シタ
リ其他ハ此公債ヲ以テ補填セントス其九百九拾萬圓ヲ以テ構造
セシ軍艦ノ一艘ハ現ニ航海中ニ在リテ三艘ハ構造中ニ在リ残計

壹千六百七拾三萬六千五百八圓餘ナレハ此ニ壹千七百萬圓ヲ募
レハ貳拾四萬圓許ノ超過ナリ

議官渡邊清曰ク本年度ノ歳費額ノ不足ハ何如スルヤ

大藏大臣曰ク是レ常用ヨリ補足スルナリ

議官渡邊清曰ク本官ハ其不足額ヨリ四百萬圓ヲ超過シテ募集スル
ニ似タルヲ疑フ

大藏大臣曰ク此公債ヲ九拾六圓ノ價格ヲ以テ發行スレハ百圓ニ四
圓ノ損失ニシテ九拾八圓ニテ發行スレハ貳圓ノ損失ナリ故ニ餘
裕ヲ設クル爲メニ不足額ヨリ募集額ヲ多クセリ公債ヲ發スルニ
ハ百圓ヲ百圓ニテ募ル能ハス本案ノ發行高ノ超過セルハ此カ爲
メナリ

總理大臣曰ク本案ハ既ニ世間ニ漏洩セシヤヲ知ラサルモ奸商輩ノ之ヲ聞テ奸策ヲ逞クシ良民ヲ不幸ニ陥ラシムルヲ恐ル故ニ務テ速ニ議定センコトヲ望ム思フニ現今直ニ若干圓ノ價格ヲ以テ發行スルヤヲ言フ能ハサルハ大藏大臣ノ秘策ノ存スル所ナリ

兩大臣 退席

○第五百十六號議案 海軍公債證書條例 第一第二第三讀會

議長 大木喬任

出席議員

- 一番 田中 芳男
- 三番 渡邊 清
- 五番 西村 貞陽

- 六番 海江田信義
- 八番 福原 實
- 九番 大久保一翁
- 十一番 伊丹 重賢
- 十三番 細川潤次郎
- 十四番 野村 素介
- 十五番 鍋島 直彬
- 十七番 加藤 弘之
- 十八番 柴原 和
- 二十二番 壬生 基修
- 二十三番 穴戸 璣

二十四番	楫取	素彦
二十五番	安藤	則命
二十七番	原田	一道
二十八番	調所	廣丈
二十九番	三浦	安
三十番	伊集院	兼寛
三十一番	神山	那廉
三十二番	鶴田	皓
三十三番	中村	弘毅
三十五番	箕作	麟祥
三十六番	本田	親雄

三十七番	西	周
三十八番	田邊	太一
四十番	長松	幹
四十一番	小畑	美稻
四十二番	榎村	正直
四十四番	岡内	重俊
四十五番	稅所	篤
四十六番	林	友幸
四十七番	橋口	兼三
四十八番	渡邊	驥
四十九番	鍋島	幹

五十番	尾崎	三良
五十一番	中村	正直
五十三番	井田	讓
五十四番	東久世	通禰
五十五番	永山	盛輝
五十六番	大給	恒
五十七番	村田	保
五十八番	津田	真道
五十九番	由利	公正
六十番	河田	景與
六十一番	久我	通久

午前第十時二十分開場

六十二番	長谷部	辰連
六十三番	何	禮之
六十五番	伊東	祐磨
六十六番	山口	尙芳
六十七番	上杉	茂憲
六十八番	長岡	護美
六十九番	黒田	清綱
七十番	渡	正元
七十一番	楠本	正隆
七十三番	坂本	政均

○議長 第五百十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

海軍公債證書條例

- 第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ壹千七百萬圓ヲ限リ三箇年間ニ漸次之ヲ發行スルモノトス
- 第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス
- 第三條 此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向三十箇年間ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス
- 第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第五條 此公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第六條 此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スルトキハ其

申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム

第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一月ニ拂渡スモノトス

第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及ヒ日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但此公債證書額面拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨ムコトヲ得但當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第九條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十六年十二月第四拾七號布告中山道鐵道公債證書條例ニ據ル

○四十九番 鍋島 幹

本官ハ初メ本案ヲ以テ海軍擴張ノ爲メニ發スル者ト思考セシニ内閣總理大臣ノ説明ニ依レハ明治十五年以來毎年特

別ニ三百萬圓ヲ海軍省ニ支給スルコトヲ確約セシニ本年度ニ至リ其約ノ如クスル能ハス因テ本案ヲ發シテ之ヲ補完セント欲スト云ヘリ夫レ歳費ニ缺乏ヲ生スルヨリシテ公債ヲ起スハ國家ノ爲メニ喜フ可キ事ニ非サルモ通常ノ歳費額内ヨリ既約ノ資金ヲ支給スル能ハサレハ本案ヲ發スルノ實ニ已ム可ラサルヲ知ル顧フニ一年三百萬圓ハ少額ナリ未タ以テ海軍ノ擴張ヲ圖ルニ足ラス然ルニ斯ク少額ノ費金スラ尙ホ支給スル能ハス事情眞ニ迫切ナリト謂フ可シ故ニ已ムヲ得ス本案ヲ賛成ス

○二十九番 三浦安 本官モ初メ本案ヲ發スルハ大ニ海軍ヲ擴張スル旨意ニ出タル可シト思考セシニ只其年費ノ缺乏ヲ補足スルナリト聞キ少シク失望セリ故ニ悅テ賛成セサルモ視テ已ムヲ得サル法案ト

爲シ敢テ異論ヲ唱ヘス

○五十四番 東久世通禮 本案ニ關シテハ兩大臣ヨリ詳細ノ説明ヲ得テ其旨意ヲ領會シタレハ之ヲ賛成ス且ヤ本案ノ急施ヲ要スルハ總理大臣ノ言ノ如シ因テ本日直ニ第二第三讀會ヲ開シコトヲ建議ス

○四十六番 林友幸 賛成

○議長 第一讀會ハ此ニ終ル五十四番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セ

ヨ
總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開キ便宜數條ヲ連帶シテ審議ニ付ス

書記官 森山茂 朗讀

海軍公債證書條例

第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ壹千七百萬圓ヲ限リ三箇年間に漸次之ヲ發行スルモノトス

第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ

向三十箇年間に抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス

○五十番 尾崎三頁

本案ノ大體ヲ賛成ス但第二條ニ少シク修正ヲ加ヘン

中山道鐵道公債證書條例第四條ニハ「此公債ノ利子ハ年七分トス」

ト言ヘリ法文ハ務メテ彼此一定ニ出ルヲ要ス故ニ本案第二條ノ「一箇年百分ノ五トス」ヲ年五分トスト改メン

○三十六番 本田親雄

賛成

○議長 五十番ノ修正ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○二十九番 三浦安

問題ト原案ト孰レニ從フモ可ナレトモ中山道鐵道

公債證書條例ノ「年五分トス」ト言ヘル文辭ヨリハ寧ロ本案ノ「百分

ノ五トス」ト言ヘルヲ妥當ナリトス故ニ今後ハ宜ク本案ノ文辭ヲ以

テ範例ト爲スヘシ問題ニハ同意セス

○四十二番 榎村正直

本官モ原案ヲ可認ス五分ト言フハ略語ナリ百分ノ

五ト言フヲ正格ト爲ス

○十八番 柴原和

法文ハ一例ニ出ルヲ要スレトモ然ルトキハ本案第三

條ノ發行年限ヲ明示セル文字モ亦一定ニ歸セシメサル可ラサルヤ

ノ感ヲ起サン中山道鐵道公債證書條例第七條ニハ「二十五ヶ年ヲ限

リ」ト言ヒ本案第三條ニハ「三十箇年間に」ト言フ本官ハ「限リ」ト云ハ

ンヨリハ「年間」ト爲スヲ以テ是トス故ニ五十番ノ注意ハ一理アル
モ之ニ同意セス

○三十五番 麟祥 本官モ孰レニ從フモ可ナリト思惟スレトモ昨日會議ヲ經タル商社法ニモ百分ノ幾何ト言ヘル有リ歐洲ニ慣用スル「ペルセント」ナル語辭モ百ニ幾何ト云フノ意義ナリ然レハ則チ百分ノ幾何ト云ヘハ歐洲ノ計數式ニモ恰當ス今後漸次ニ民法商法等ヲ制定スルナレハ此等ノ文字モ務メテ歐洲ニ模倣スルヲ善シトス又「一箇年」ノ文字ハ少シク繁贅ニ似タルモ我邦ニハ往往一箇月ヲ以テ計算スル習慣アルニ因リ之ヲ存スルモ儘マ可ナラシ「百分ノ五」ト言フ原案ノ用字例ハ後來ニ便利ナルヲ信ス

○五十番 尾崎三良 種種ノ反對說ヲ聞クモ現ニ金祿公債證書條例ニハ七

分又ハ六分ト爲シ而シテ百分ノ幾何ト分注セリ我邦從來計算ニハ百分ノ十ヲ一割ト云ヒ百分ノ一ヲ一朱ト云フヲ以テ慣法ト爲シ歐洲ノ如キモ亦自ラ彼レニ適當ナル慣法ヲ存セリ既成ノ法文既ニ七分六分ト爲シタルヲ必シモ本案ニ限り此慣例ヲ破ルヲ要セス歐洲ノ所謂「ペルセント」ハ自ラ彼レノ慣法ノミ又一箇年ノ文字ヲ不用ト云フモ恐クハ當ラス聊カ修正ノ理由ヲ辨明ス

○五番 西村貞陽 本官モ原案ヲ可トス五十番ハ百分ノ幾何ナル文字ハ始メテ本案ニ使用セシ如ク云ヘルモ既ニ利息制限法ニ百分ノ幾何ナル文字ヲ見レハ決シテ新創ノ者ニ非ス況シテ昨日會議ヲ經タル商社法ニモ亦此文例ヲ用ヒタルヲヤ

○十一番 伊丹重賢 從前ノ計算法ノ如ク幾割幾朱ト爲スハ煩雜ナルヲ覺

フ且ツ商社法ニモ百分ノ幾何ト言ヘハ原案ノ如クスルヲ分明ナリトス今後ハ悉ク此計算法ニ從フヲ要ス

○議長 五十番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ五十番ノ修正説ハ消滅ス

○二十九番 三浦安 本官ハ法律ノ全體ニ關シ文面ヲ改正セン中山道鐵道公債證書條例ニモ「此公債」ト言ヘリ此ノ如キハ和習ナルヤ漢習ナルヤヲ知ラサルモ名詞ハ省畧セサルヲ善シトス故ニ「此公債」ノ「此」ノ字ヲ海軍ノ二字ニ改メン若シ本案中ノ一條ヲ他ニ引用スル有ンニ「此公債」ト言ヘルトキハ甚タ支障ヲ見ル思フニ「此公債」ト言フハ海軍ノ文字ヲ省畧セルナル可キモ此等簡單ノ文字ヲ省畧スル

モ何ノ益カ之レ有ラン啻ニ無益ナルノミナラス或ハ事ニ支障セン本官ハ他ノ法律ニモ亦此ノ如クスルヲ欲スルナリ

○議長 二十九番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十八番 柴原和 本官ハ「百分ノ五」ヲ百分ノ四ト改メント欲ス中山道鐵道公債證書ハ「百分ノ七」ナルモ近來諸公債證書ハ其時價大ニ騰貴シ金銀貨ノ如キモ隨テ昂上セリ明治十二三年ノ交ハ紙幣ノ價格漸ク低降シテ銀貨漸ク昂進シ其間差甚タ懸隔セリ然ルニ今日ハ銀貨紙幣ノ間差ヲ見サルニ至リシモ之ニ反シテ諸公債ハ彌ヨ騰貴ス起業公債ノ如キ從前其價格ハ八拾圓ニシテ中籤スレハ百圓ヲ領受ス可キヲ以テ所有主ハ皆其中籤ヲ希望セシモ今日ハ市價百六七圓ニ昂進セシヲ以テ所有主ハ皆其中籤ヲ嫌避ス是レ一ハ人民ノ政府

ヲ信スル厚キト一ハ世間金融ノ壅塞セシトノ致ス所ナリ聞ク日本
 銀行ノ利子ハ大概百分ノ四ナリト然レハ則チ今日此公債ヲ發行セ
 ハ設令其價格ヲ上セテ九十圓ト爲スモ必ス九十五圓ニ競昂セン百
 分ノ五ト百分ノ四トハ僅カニ一分ノ差異ナレトモ之ヲ聚合スレハ
 巨額ト爲リ政府ノ利益隨テ大ナル可シ思フニ今日ノ市況ハ百分ノ
 三ト爲スモ尙ホ申込人ノ多キヲ保ス故ニ改メテ百分ノ四ニ下スヲ
 得策ト爲ス彼ノ銀行等ニ於テ確實ノ抵當ヲ徵スルスラ猶ホ一箇月
 百圓ニ三拾錢ノ利子ニ過キスト聞ク以上ノ事情ナレハ百分ノ四ト
 爲スヲ適當ト信ス

○議長 十八番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○四十九番 鍋島 幹 本日內閣委員ハ出席セサルヤ

○議長 然リ

○四十九番 鍋島 幹 公債募集額ノ多少ハ人民ノ信用ニ關係スト信スレ

トモ質疑スル能ハサレハ黙止センノミ

○議長 第一條乃至第三條ハ可決ト認メ次ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 此公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六條 此公債證書引受申込高每期需用ノ高ニ超過スルトキハ其
 申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至
 テ之ヲ止ム

○十三番 細川 潤 次郎 賛成ノ有無ハ知ラサルモ少シク修正ノ意見ヲ陳ン

第四條ノ價格ハ大藏大臣ノ定ムル所ナレハ八拾五圓或ハ九拾圓等
 其方寸ニ存スルナラン然ルニ此ニ特例ヲ立ル無キヲ以テ價格ハ一
 定不變ト看做ス可キモ第六條ニ「其申込價格ノ高キモノヨリ」云云
 スト言ヘハ大臣ノ定ムル價格ヨリ降下スルハ之ヲ許ササルモ此ヨ
 リ昂上スルハ敢テ妨ケサルニ似タリ過刻十八番議官モ誤解ニ近キ
 言ヲ發セシ如ク本條ハ何人モ少シク疑ヲ挿ム無キヲ得ス然レトモ
 其實際ハ第六條ニ示ス如ク處分スル者ニシテ即チ中山道鐵道公債
 證書條例ニ詳記セル所ニ異ナラス同條例第五條ニ「此公債證書引
 受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルトキハ其超過高二
 比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メ
 テ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減

少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトスト言ヘリ此成文
 ヲ解剖スレハ前キニ大藏大臣ノ陳明セシカ如ク申込人其價格ヲ競
 昂スレハ先ツ其高キ者ヨリ證書ヲ交付スルハ固ヨリ分明ナルモ本
 案ハ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ意旨ヲ第四條ト第五條トニ
 分載セルヲ以テ此第四條ノ如クナレハ一タヒ價格ヲ定ムルヤ復タ
 之ヲ左右スルヲ得サルニ似タリ何トナレハ「價格ハ大藏大臣之ヲ定
 ムト言ヘハナリ然ルニ第六條ニ於テ申込人其價格ヲ昂上スルコト
 ヲ言フハ事理解ス可ラス且既ニ其價格ヲ増スヲ得ルトセハ隨テ之
 ヲ減スルヲ得ルトノ反意ヲ生セン故ニ此障礙ヲ避ケテ其申込價格
 ヲ○高○キ○モ○ノ○ヨ○リ○順○次○云○云○ト○爲○セ○ハ○第○四○條○ニ○照○應○ス○ル○ヲ○得○ン○蓋○シ
 本案第九條ノ明文ニ依レハ此等ノ事理ハ解ス可ラサルニ非サルモ

一層ニ明白ナラシムルヲ要スルナリ

○三十二番鶴田 本官モ此第六條ニハ疑團ヲ懷キシカ中山道鐵道公債證書條例ヲ讀ミ始メテ之ヲ理會セリ本案ノ第四條及ヒ第六條ノ處置ハ皆是レ中山道鐵道公債證書條例ニ據ル者ト爲シ此第四第五兩條ヲ立テサレハ事理明白ナルモ却テ之ヲ立ル以上ハ少シク改修セサル可ラス本案第九條ニ此條例外ノ事項ハ云云中山道鐵道公債證書條例ニ據ルト言フモ半ハ彼條例ニ據リ半ハ此條例ニ據ルト爲ス如キハ處理上ニ明白ヲ缺ク因テ十三番ノ動議成立セサレハ本官ハ更ニ第四條ニ但書ヲ加ヘ但價格以上ニ申込云云ト修正セントス否ラサレハ大藏大臣ノ定ムル價格モ之ヲ左右スルヲ得ルヤノ嫌ヒ有リ本案ノ精神ハ最低價限ハ大藏大臣之ヲ定メ而シテ申込人ノ官

定價格ヨリ競昂スル有レハ先ツ其最高價ノ申込人ヨリ證書ヲ交付スルニ在ルナランモ其最低價限ヲ明示セサレハ人民ハ迷誤スル無キ能ハス幸ニ十三番ノ修正ニ從ヘハ其精神ノ如ク理會スルヲ得ン因テ之ヲ賛成ス

○議長 十三番ノ修正ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○十一番伊丹重賢 本官ハ修正說ニ同意セス是レ原案ノ意義ニ背反スレハナリ中山道鐵道公債證書條例ニ於テハ大藏大臣ヨリ八十圓ト定ムレハ八十一圓ナリ八十二圓ナリ官定價格ヨリ高ケレハ一齊ニ證書ヲ交付スルモ本案ハ特ニ其價格ノ最も高キ者ヨリ順次ニ付與スルヲ以テ九十圓ニテ申込ムト八十五圓ニテ申込ムトノ二者アレハ八十五圓ノ申込人ニハ證書ヲ交付セサルナリ要スルニ中山道鐵道

公債證書條例ノ精神ハ十三番ノ說ノ如クナルモ本案ノ精神ハ之レト異ニシテ申込價格ノ最モ高キ者ヨリ順次ニ交付スルニ在リ故ニ現問題ヲ賛成セス

○四十九番 鍋島 幹 本官ハ動議者及ヒ賛成者ト解釋ヲ異ニス中山道鐵

道公債證書條例ハ競賣ヲ以テ基本ト爲シ一定ノ價格ヨリ高價ニ申込メハ幾萬圓ヲ間ハス平等ニ證書ヲ交付スルモ本案ハ大藏大臣價格ヲ定メ五百萬圓ノ募集額ニ對シ一千萬圓ノ申込高ナレハ五百萬圓ノ超過タルヲ以テ其際ニハ申込價格ノ最モ高キ者ヨリ順次ニ證書ヲ交付ス又若シ募集額ニ超過セサレハ大藏大臣ノ定メタル價格ヲ以テ交付スルナリ本案決シテ些ノ疑義ヲ存セス

退席 五十三番 井田 讓

○三十五番 箕作 麟祥 本官モ現問題ニハ同意セス本案ハ素ト中山道鐵道

公債證書條例ト自ラ其旨趣ヲ異ニス中山道鐵道公債證書條例ハ第五條ニ於テ「其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ」ト示セシニ申込人ハ非常ニ多キヲ加ヘ争フテ大藏卿ノ意想外ナル高價ニ申込ミ大藏卿モ其處分ニ困却シタリト聞ケリ是レ其方法ノ未タ完全ナラサル所アリシニ由ルナリ是ヲ以テ本案ハ其方法ヲ改メ最高價格ノ申込人ヨリ順次ニ證書ヲ交付スルヲ示シ以テ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ窮屈ナル處置ヲ避ケントス現問題ノ發議者ハ第四條ニ言フ所ノ價格ヲ定ムルトハ様式ヲ定ムルト同シク一定移動ス可ラサル者ナルニ第六條ニ「價格ノ高キモノヨリ」云云ト言フトキハ一定ノ價格ヲ動搖スルニ似テ彼此抵觸ヲ致スト云

フモ第六條ノ申込價格トハ即チ引受人ノ申込價格ヲ謂フノミ大藏大臣ノ定メタル價格ハ決シテ移動セサルヤ分明ナリ且其修正文ノ如ク「申込價格ヨリ高キモノヨリ順次」云云ト爲ストキハ例ヘハ大藏大臣ニ於テ價格ヲ八十圓ト定メタル場合ニ八十五圓及ヒ九十圓ノ價格ヲ以テ申込タラハ其孰レヲ先キニスルヤヲ解ス可ラス原案ノ如クシテ始メテ其申込價格ノ最モ高キモノヨリ證書ヲ交付スル精神ヲ明白ナラシムルニ足ル過刻十八番モ此點ニ疑議ヲ發セシモ本官ハ明瞭火ヲ觀ル如シト信シ一字ノ修正ヲモ要セサルナリ

○十八番柴原和 本官ハ初メ誤解セシヤヲ知ラサルモ十三番ト同一ノ感想ヲ抱ケリ即チ第四條ニ於テ大藏大臣一タヒ價格ヲ定メタル以上ハ復タ之ヲ動搖スルヲ得サルニ第六條ニ至リ「申込價格ノ高キモ

ノヨリ」ト言ヘハ自由ニ動搖スルヤノ嫌ヒ有レハナリ之ニ加フルニ「之ヲ定ム」ノ文字ハ中山道鐵道公債證書條例ノ第五條ト同シカラス需用額ノ何如ニ由ルナレハ若シ富豪家一個ニテ巨額ノ申込ヲ爲セハ此公債ハ皆其手中ニ落チ他人ハ之ヲ領受スルヲ得スト思惟セシニ大藏大臣ハ申込價格ノ最モ高キ者ヨリ順次ニ交付スト云ヘリ中山道鐵道公債證書條例ハ發行價格ヨリ高キトキハ一齊ニ證書ヲ交付シ復タ其多寡ヲ問ハサレハ價格ノ一定ナルハ分明ニ解シ得ルモ本案第六條ノ如キハ申込價格ニ因テ官定價格ヲ左右スルニ似タレハ其疑團ノ起ルハ理由ナキニ非ス然レトモ十三番ノ修正文ノ如ク「申込價格ヨリ」云云ト爲セハ文意解ス可ラス故ニ賛成スル能ハス三十二番ニシテ但書ヲ付スル豫陳說ヲ提出スルニ至レハ本官ハ

之ヲ賛成セントス

○二十九番^{三浦安} 第六條ニ疑義ノ存スルヲ以テ現問題ノ如ク修正セントスルハ其理ナキニ非ス然レトモ三十五番ノ解釋ニ從ヘハ毫モ疑議ヲ容ルルヲ要セス抑モ中山道鐵道公債證書條例ヲ發スルヤ申込人少數ナル可シト豫想シ官定價格ヨリ高キ申込ヲ爲セル者ニハ平等ニ證書ヲ交付スルト爲セシニ申込人意外ニ多數ニシテ其處分ニ困難セシニ由リ本案モ申込人ノ多數ナランヲ豫想シ此ノ如ク立案シタルナリ然ルトキハ彼此共ニ豫想說ニシテ初ヨリ確乎タル定見アルニ非ス故ニ若シ本案ヲ發シ官定價格ヨリ高價ヲ以テ申込ム者ノ或ハ多數ナラサレハ中山道鐵道公債證書條例第五條ニ依テ處分スルノミ過刻大藏大臣ノ説明セシ所モ亦此レニ外ナラス兩案共

ニ想像ヲ以テ其案ヲ立テシナレハ意義ノ分明ナラサルハ已ムヲ得サルナリ蓋シ十三番ノ言ノ如クナレハ高價ヲ以テ申込ム者ノ少數ナルトキハ更ニ其處分ヲ明示セサル可ラス故ニ十三番ノ修正ハ意義未タ完足セス三十二番ノ但書說ノ如キモ亦未タ妥當ナラス願フニ但書ヲ以テ一定ノ價格ヨリ高價ニ申込ムヲ得ヘキヲ示スハ恐クハ法律ノ精神ヲ薄弱ナラシメン唯其申込高價ノ少數ナル場合ノ處分ヲ示スヲ得策ト爲ス故ニ本官ハ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ文字ヲ參酌シテ本條ヲ修正セント欲ス

○議長 十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ十三番ノ修正說ハ消滅ス

○三十二番鶴田 只今消滅セシ問題ハ妥穩ナラス本官ハ第四條ニ但書ヲ添ヘ但引受人ハ其價格以上ニ申込コトヲ得ト爲サント欲ス元來中山道鐵道公債證書條例ニ於テハ一時ニ申込ヲ受ケ其金額若シ大藏省ノ需求高ニ超過スルトキハ其超過高ニ比例シテ之ヲ減少シ本案ニ於テハ大藏大臣先ツ價格ヲ定メ此ヨリ高價ニ申込ムトキハ其最高キ者ヨリ順次ニ證書ヲ交付スルナリ故ニ本條ニ但書ノ如キ文辭ヲ掲ケサレハ第六條ノ趣意分明ナラス若シ價格ヲ百圓ト定メ而シテ其價格ノ如ク申込ムトキハ固ヨリ異論ナキモ此ヨリ高價ニ申込ム者アルトキハ必ス此但書ヲ掲ケサル可ラス某議官ハ官定價格ヲ以テ申込ム者ト更ニ高價ヲ以テ申込ム者トヲ區別スルモ本官ハ之レカ區別ヲ要セス初ヨリ高價ニ申込シムルモ可ナリト信ス故

ニ到底此但書ヲ掲クルヲ必要ナリトス此ノ如クシテ本案ノ第四條第六條ヲ存スル以上ハ中山道鐵道公債證書條例ノ第五條ハ之ヲ用ヒスシテ足ルナリ

○十八番柴原和

三十二番ヲ賛成ス修正文字ハ少シク妥穩ナラサル如キモ此說ニシテ行ハレハ其文字ハ第三讀會ニ改修スルモ可ナリ本官ノ淺知ナル故ニ由ルヤハ知ラサレトモ中山道鐵道公債證書條例ニハ價額ヲ定メ云云ト言ヘハ某官ハ中山道鐵道公債證書條例ニ據テ理會スルヲ得ヘシト云フモ本官ハ理會スル能ハス設令ヒ其意義ハ理會シ得ルモ其事項ハ決シテ分明ナラス故ニ本條ハ必ス修正セサル可ラス即チ此公債證書ハ第四條ニ定メタルヨリ多額ヲ以テ申込者ニハ云云ト爲サント欲スルモ今先ツ三十二番ヲ賛成スルナ

○議長 三十二番ノ動議ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○二十九番 三浦安 問題ノ精神ハ完美ナルモ第四條ニ但書ヲ加フルハ

甚タ法文ノ體裁ヲ損ス本官ハ十八番ノ豫言說ヲ至當ト爲シ本問題ニハ同意セサルナリ

○三十五番 箕作麟祥 書記官ヲシテ修正文ヲ朗讀セシメンコトヲ乞フ

書記官 森山茂 朗讀

但引受人ハ其價格以上ニ申込コトヲ得

○六十六番 山口尙芳 現問題ハ恐クハ成立セスシテ必然原案ニ復ス可キ

モ某議官ノ豫陳說モ有レハ爲メニ一辨セン曩キニ中山道鐵道公債證書條例ヲ發行スルヤ本案第六條ノ如クセサリシハ自ラ事由ノ在

ル有リ當時貳千萬圓ヲ募集スルニ果シテ其目的ヲ達シ得ルヤ否ヤハ今日ノ景況ト異ニシテ大藏卿モ其價格ヲ若干圓ト定メ若シ申込人少ナキトキハ政府面目ヲ缺クノ掛念ナキ能ハス故ニ其第五條ノ如ク立案セシナリ然ルニ今日市場ノ景況ハ昔日ト同シカラス富豪家ハ資財ノ運用ニ困メル場合ナレハ斷然ニ價格ヲ定ムルヲ得策ト爲ス是レ實ニ正則ナリ若シ價格ヲ定メサレハ或ハ百圓ヲ貳拾五圓ノ價格ト爲シテ申込ム有ルモ政府ハ之ニ應セサルヲ得ス是ノ如キハ奇奇怪怪ノ處分ニシテ各外國ニモ其例ヲ見サルナリ故ニ分明ニ價格ヲ定メ其申込ノ有無ハ人民ノ意向ニ任シテ可ナリ元老院ハ本ト立法衙門ナレハ政畧ノ何如ハ與リ知ル所ニ非ス故ニ第四條ハ原案ノ如クシテ支障セスト信ス各議官ノ疑フ所ハ中山道鐵道公債證

書條例第五條ト本案第六條トノ差違ニ在ルナランモ是レ前陳ノ理由ナレハ其成文ノ本案ト異ナルハ已ムヲ得サルニ出タルノミ外國ニ於テハ大抵初ヨリ銀行等ノ内引受ヲ約定スルヲ恒例トス道理上ヨリ之ヲ論スレハ本家中需用額ニ超過スルトキ加入額ニ幾許ノ減少ヲ爲スヤノ比例ヲ明示セサル缺點ヲ存ス大藏大臣ハ金高二比例スト云フモ立法官ノ職掌ニ於テハ唯大藏大臣ノ演說ニ委スル能ハス必ス法律ニ明記スルヲ要ス然レトモ總理大臣モ列席シテ演說シタルナレハ本官ハ之ヲ信シテ疑ハス且第九條ノ明文ニ依レハ第四條ニ但書ヲ附スルハ無用ヲ覺フルナリ

○三十二番 鶴田 皓 六十六番ノ言ニ中山道鐵道公債證書條例第五條ハ當時ノ政畧ニ因テ此ノ如ク規定シタルモ今日ハ必ス本案ノ如クセ

サル可ラスト云フ是レ大ニ見解ヲ誤マレリ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ本文ニ據ルニ曰ク「此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルトキハ其超過高ニ比例シ各申込人へ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス」ト然レハ則チ當時其價格ハ大藏卿之ヲ定メタルヤ明白ナリ而シテ其價格ヨリ高價ニ申込ム者ノ意外ニ多數ナリシヲ以テ其加入高ヲ減シテ證書ヲ交付シタルナリ本案ニ於テモ初ヨリ價格ヲ一定シ此ヨリ以上ナレハ幾許ノ高價ヲ以テスルモ申込ヲ許スナルニ法文上其事ヲ明示セス故ニ本會ニ於テモ種種ノ疑問ヲ生セリ論者或ハ價格ヲ百圓ト定メテ發行センニ申込高千

萬圓或ハ貳千萬圓ニ上リ大藏大臣ノ需用ニ超過スルトキハ第六條ノ如クシ超過セサルトキハ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ如クスト解スルモ是レ恐クハ牽強ナラン元來競賣ハ初ヨリ價格ヲ定ムル者ニ非ス其競昂ノ極度ニ達スルヲ俟テ始メテ之ヲ定ムルヲ常トス初ヨリ價格ヲ定ムルハ却テ變則ナルノミ本官ノ說ハ決シテ奇怪ニ非サルナリ

○議長 三十二番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十二番ノ修正說ハ消滅ス

○二十九番 三浦安 本官ハ先ニ豫陳セル所アリシモ文字未タ整修セサルヲ以テ第三讀會ヲ俟チ之ヲ提出セン

○四十二番 榎村正直 二十九番ハ修正說ヲ提出スルヲ後會ニ讓レリ因テ

本官ハ第六條ニ修正ヲ加ヘン本條ニ關シ種種ノ議論出タルモ猶ホ緊要ノ點ヲ遺セリ中山道鐵道公債證書條例ニハ申込高ノ超過スルトキハ其超過高ニ比例シテ減少スト言ヘルモ本案ハ申込價格ノ高キ者ノミヲ撰拔シテ順次ニ證書ヲ付與スルコトヲ明示ス然レハ則チ大藏大臣ノ定ムル價額ヲ以テ申込ミタル場合ノ處分ハ此ニ脫漏スルナリ若シ十萬圓或ハ貳拾萬圓ノ需求ヲ發行價格ヨリ高價ヲ以テ申込ム者ト貳百萬圓又ハ三百萬圓ノ需求ヲ定價ヲ以テ申込ム者ト有リテ申込高ノ總計若シ需用ニ超過スルトキハ其處分ハ之ヲ何如スルヤ元來定價ヨリ高價ニ申込ム者ハ本案ノ如クシテ支障ヲ見サルモ定價ヲ以テ申込ム者ハ本案ノ如クスルヤ其處分ニ支障セン

是レ中山道鐵道公債證書條例ニ據ルト云フモ其第五條ハ本案第六條ニ採取シタレハ更ニ第五條ニ據ルト云フハ不體裁ニ非スヤ故ニ本條ヲ修正シテ「此公債證書引受申込高每期需用ノ高ニ超過スルトキハ」下「其申込價格」ノ上ニ其超過高ニ比例シ各申込人ニ對シ證書ヲ減少スルモノトス但價格以上ニテ申込者アルトキハノ文字ヲ插入シ其以下ハ原案ノ如クセン是レ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ文字ヲ本條ニ結合スルナリ本官ハ原案ノ如クニシテ支障スル無シト信スルモ意義ノ完全ナルヲ欲セハ此文辭ヲ補入スルヲ要ス本官ノ修正ハ或ハ成立セサルヤヲ知ラサルモ願クハ各官ノ賛成ヲ得ンコトヲ

○三十五番 箕作 麟祥

本官ハ前修正說ニハ賛成ノ意ヲ表セサリシモ現修

正說ニハ同意スルナリ先ニ六十六番ヨリ大藏大臣ニ此點ヲ質セシニ大藏大臣ハ中山道鐵道公債證書條例ニ依リ比例シテ減少スト答ヘリ然レハ單ニ第九條ノミヲ以テシテハ意義完全ナラス原案ヲシテ一層ニ明備ナラシメントナレハ四十二番ノ修正ノ如クセサル可ラス蓋シ各官モ同感ナル可シト信ス

○議長 四十二番ノ動議ハ賛成者アレハ問題ト爲ス

○十八番 柴原 和

官定價格ヨリ以上ノ高價ヲ以テ申込ムトキハ第六條

ハ原案ノ如クシテ足ルモ官定價格ヲ以テ申込ムトキハ支障ヲ見ル而シテ現問題ハ甚タ明備ナリ此ノ如クニシテ始メテ其處分ニ困マ
ス喜テ之ヲ賛成ス

○四十九番 鍋島 幹

書記官ノ修正文案ヲ朗讀センヲ望ム

此公債證書引受申込高每期需用ノ高ニ超過スルトキハ其超過高ニ比例シ各申込人ニ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格以上ニテ申込者アルトキハ其申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム

○四十九番 鍋島 幹 修正文ノ意義ハ之ヲ領會ス然ルニ是レ原案ノ主旨ト背反ス即チ五百萬圓ノ需用ニ對シ壹千萬圓ノ申込アレハ超過高ニ比例シ證書ノ渡高ヲ減少スルト爲ストキハ決シテ官定價格以上ノ高價ニテ申込ム者ナカラシ元來本案ノ主旨ハ其價格ヲ九拾圓ト假定シ而シテ九拾貳圓又ハ九拾五圓ト云ヘル如ク競昂セシムルニ在ルニ本問題ノ如クスレハ人人皆官定價格ヲ以テ申込ミ隨テ賣價

ニ影響ヲ及ホサントス故ニ決シテ賛成スル能ハス

○十八番 柴原 和 四十九番ハ發議者ノ旨意ヲ誤認セルニ似タリ其旨意タル價格ヲ八拾圓又ハ百圓ト定メンニ若シ此價格ヨリ高價ヲ以テ申込サルトキハ五百萬圓ノ需用ニ對スル千萬圓ノ申込高ニ比例シテ渡高ヲ減少シ又若シ高價ヲ以テ申込ムトキハ但書以下ノ如ク其最モ高キモノヨリ順次ニ交付スルニ在ルナリ然ルニ本條ニ於テハ單ニ官定價格ヨリ高ク申込ム者ノ處分ノミヲ掲ケ而シテ官定價格ヲ以テ申込ム者ノ處分ヲ示サス故ニ修正文ハ原案ヲ補完セルノミ決シテ原案ノ主旨ニ背反スルニ非ス彼ノ中山道鐵道公債證書條例ニハ此自由活動法ヲ存セサルナリ

○四十九番 鍋島 幹 本官決シテ誤解セルニ非ス十八番ハ此公債ヲ發行

スレハ引受人ノ多多ナラント思考セルナル可キモ修正文ノ如クセ
ハ決シテ官定價格以上ノ高價ニテ申込ム者ナカル可シト信ス元來
引受人ハ一圓ナリトモ低價ナルヲ欲スルニ其却テ高價ニ申込ム所
以ハ多額ヲ引受ント欲スルニ由ル然ルニ需用高ニ超過スレハ其申
込價格ノ高低ニ關セス渡高ヲ減少セラルレハ決シテ高價ヲ以テ申
込サルハ必然ノ情勢ナリ故ニ則需用額ニ超過スル場合ノ處分ヲ示
スニハ文章ノ位置ヲ倒換セサル可ラス

○六十六番山口
尙勞

現問題ハ申込價格ノ同一ナル場合ニ於ル處分法ヲ
補完スルニ在リ本官ハ過刻大藏大臣ノ答辨ヲ聞クヤ既ニ之ヲ瞭解
セリ本官初メ本案ハ第八條中ニ但ノ字ヲ重複シタル誤謬ヲ訂スノ
外ニハ一點ノ修正ヲ要セスト思惟セシモ現修正ハ一層意義ヲ明白

ナラシムレハ之ヲ賛成セントス本案ノ疑點ハ第四條ト第六條トニ
中山道鐵道公債證書條例第五條ノ文字ヲ分載シタルニ生出シ而シ
テ現修正ハ其缺點ヲ補完シタルモ仔細ニ之ヲ觀レハ猶ホ缺點ヲ存
ス例ヘハ價格ヲ百圓ト定ムルニ百五圓百拾圓又ハ百拾五圓ヲ以テ
申込ンニ百五圓ノ申込高ニテ需用額ニ滿ルトキハ其處分ハ之ヲ何
如スルヤ恐クハ支障ヲ來サン故ニ本官ハ但以下ヲ證書ヲ交付シ同
價格ハ金額ニ比例シテ減少スル者トスト修改セント欲ス四十九番
ハ種種ノ說ヲ爲シ原案ハ高價ニ申込タルトキハ其最高キ者ヨリ證
書ヲ交付セントスルニ修正文ノ如クナレハ申込人ハ決シテ高價ニ
申込サル可シト云ヘリ然ラハ高價ニ申込タル者ヲ處分スルニハ最
高價ヲ先ニシ同價格ハ金高ニ比例スルト爲シテ可ナリ是レ精神ハ

現修正ト異ナラス四十二番ニシテ此補足ニ同意セハ本官モ直ニ之ヲ賛成セン原案ノ「満ルニ至テ之ヲ止ム」ノ文字ハ無用ニ似タリ中山道鐵道公債證書條例ニハ「減少スル者トス」ト言フニ止メリ此ノ如クスレハ四十九番ノ駁論モ之レ無カル可シ蓋シ人情ハ一種特別ナル者ニテ幾分カ定價ヨリ高價ニ申込サレハ引受ラレヌトノ意思ヲ生スルナレハ大藏省ハ政畧ヲ以テ其定價ヲ高クスルヲ要ス

○議長 四十二番ノ修正説ハ既ニ問題ト爲リタレハ先ツ之カ決ヲ取
ン六十六番ノ意見ハ別ニ提出セヨ且時午牌ヲ過キタレハ一旦散會
セン

午後零時四十分閉場

午後第一時十五分開場

退席	一番	田中 芳男
同	六番	海江田信義
同	十三番	細川潤次郎
同	十四番	野村 素介
同	十八番	柴原 和
同	二十八番	調所 廣丈
同	二十九番	三浦 安
同	三十五番	箕作 麟祥
同	三十六番	本田 親雄
同	四十五番	税所 篤

同	四十六番	林友幸
同	四十七番	橋口兼三
同	五十番	尾崎三良
同	五十七番	村田保
同	六十一番	久我通久
同	六十五番	伊東祐磨
同	六十八番	長岡護美
同	六十九番	黒田清綱
同	七十番	渡正元

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○四十二番 榎村正直 本官ノ提出セル修正説ハ幸ニ賛成者ヲ得テ問題ニ

上レリ然ルニ反對者ハ奇怪ナル説ヲ爲シテ曰ク修正説ノ如クセハ
 實際官定價格以上ニテ引受ヲ申込ム者ナク大ニ原案ノ旨趣ヲ傷ツ
 クト是レ本官ノ了解セサル所ナリ中山道鐵道公債證書條例第五條
 ノ官定價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セスト明示セルニ
 拘ラス當時官定價格以上ヲ以テ申込ム者頗ル多ク大藏省ハ爲メニ
 其渡方ニ困却シタリトハ既ニ午前ニ於テ某官ノ陳明セシ所ニ非ス
 ヤ本條モ官定價格以上ニテ申込ム者アルトキハ其申込價格ノ高キ
 モノヨリ順次ニ證書ヲ交付スルコトヲ言ヘハ官定價格以上ニテ申
 込ム者ノ多カル可キハ必然ノ情勢ナリ何ソ論者ノ杞憂ヲ要セン其
 レ然リ縱令ヒ一釐一錢タリトモ第四條ニ據リテ定ムル價格ヨリ高
 價ニ申込ムトキハ其高キ者ヨリ順次ニ證書ヲ交付ス可キハ當然ナ

リ某議官ハ原案第六條ヲ視テ或ル政畧ニ出ツト論スルモ是レ一己ノ推測ニ過キス今若シ一步ヲ讓リ政畧ニ因リテ然リトスルモ本官ノ修正ノ以テ其政畧ヲ傷ツケサルハ萬萬ナリト信ス

○三番渡邊清

本官ハ現問題ヲ非視スル殆ント四十九番ト感ヲ同フス因テ四十九番ノ午前ノ陳述ヲ繼キ以テ聊カ其遺漏ヲ補ハン論者或ハ本案第六條ハ中山道鐵道公債證書條例第五條ヲ移シ來レル者ノ如ク解スル有リ發議者ノ意モ恐クハ然ラン然ルニ中山道鐵道公債證書條例第五條ハ全ク申込高ノ需用金高ニ超過スルトキハ其超過高ニ比例シテ渡高ヲ減少スルヲ眼目ト爲シ而シテ但書ニハ價格ヲ定メ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ渡高ヲ減少セサルヲ特示セリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ中山道鐵道公債證書條例

ハ豫メ證書ノ價格ヲ定メサルヲ本旨ト爲スヤ明白ナリ之ニ反シテ本案ハ既ニ第四條ニ於テ其價格ヲ定メ因テ以テ第六條ノ明文ヲ生出セリ畢竟本條ハ中山道鐵道公債證書條例第五條但書以下ト同シキノミ且過刻大藏大臣ノ別席ニ於テ某議官ニ答辨スル所ニ據ルモ本條ノ精神ハ所謂ル競昂ヲ主トスルヲ以テ假令ヒ五分ニテモ官定ノ價格ニ超過スレハ其高キ者ヨリ順次ニ證書ヲ交付ス復タ中山道鐵道公債證書條例第五條ノ如キ比例減少ノ方法ヲ用ヒサルナリ既ニ起業公債證書發行ノ場合ニ於テモ申込高非常ニ超過セリト聞ケリ十八番ハ過刻四十九番ノ論辨ヲ指シテ誤解ナリト難セシモ本官ハ十八番ノ駁說コソ反テ誤解ニ出テ四十九番ハ善ク原案ノ精神ヲ看破セリト信ス若シ超過高ニ比例シテ交付ストセハ原案ノ競昂ヲ

主トスル精神ヲ破ルノミナラス四十九番ノ云フ如ク官定價格以上ニテ申込ム者ナカル可シ然ラハ則チ現修正ハ原案ノ精神ヲ傷ツケ遂ニ行政上ノ區域ニ侵入セントス願クハ再思ヲ加ヘ以テ行政ノ順叙ヲ妨害セサルニ注意センコトヲ

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取シ四十二番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者一人

○議長 少數ナルヲ以テ四十二番ノ修正說ハ消滅ス即チ第四條乃至第六條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一月ニ拂渡スモノトス

第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及ヒ日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但此公債證書額面拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨ムコトヲ得但當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第九條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十六年十二月第四拾七號布告中山道鐵道公債證書條例ニ據ル

○四十九番 鍋島幹 第八條ニ些少ノ修正ヲ加ヘン條文中ニ但書ヲ複用セルハ未タ其例ヲ見ス因テ後ノ「但」ヲ削リ「當籤證書」云云以下ヲ別項ト爲サハ文體妥當ニシテ執行ト告示トノ分界ヲ明晰ナラシムルヲ得ン

○四十二番 榎村正直 賛成